

第16回教育委員会（定）

開会日時 平成27年 7月 23日（木） 午前 9時30分
閉会日時 午後 0時59分
開会場所 教育支援センター研修室

出席者

教 育 長	中 川 修 一
委 員	高 野 佐 紀 子
委 員	青 木 義 男
委 員	松 澤 智 昭
委 員	上 野 広 治

出席事務局職員

事務局次長	寺 西 幸 雄	教育総務課長	小 林 緑
学務課長	榎 木 恭 子	生涯学習課長	浅 賀 俊 之
学校地域連携担当課長	木 内 俊 直	指導室長	栗 原 健
教育支援センター所長	新 井 陽 子	新しい学校づくり課長	新 部 明
学校配置調整担当課長	水 野 博 史	施設整備担当副参事	荒 張 寿 典
中央図書館長	荒 井 和 子		

署名委員

教育長

委員

午前 9時 30分 開会

教 育 長 本日は、4名の委員の出席を得ましたので、委員会は成立いたしました。
ただいまから、平成27年第16回の教育委員会定例会を開催いたします。
本日の会議に出席する職員は、寺西次長、小林教育総務課長、榎木学務課長、
浅賀生涯学習課長、木内学校地域連携担当課長、栗原指導室長、新井教育支援セ
ンター所長、新部新しい学校づくり課長、水野学校配置調整担当課長、荒張施設
整備担当副参事、荒井中央図書館長の、以上11名でございます。
本日の議事録署名委員は、会議規則第29条により松澤委員をお願いいたしま
す。
本日の委員会は、19名から傍聴申し出がされており、会議規則第30条によ
り許可しましたので、お知らせいたします。
初めに、私から報告いたします。
別府明雄委員が7月12日をもちまして、任期満了に伴い、ご退任されました。
かわって、上野広治委員が、6月24日開催の区議会本会議におきまして、板
橋区教育委員会委員としての同意を得て、7月13日付で区長から教育委員に任
命されたことをご報告します。
それでは、上野委員にご挨拶をお願いいたします。

上 野 委 員 上野と申します。おはようございます。何分、不慣れですが、やりがいのある
仕事だと思っております。しっかり頑張っていきたいと思えます。
よろしくをお願いいたします。

教 育 長 ありがとうございます。
さて、席次ですが、今お座りの席でよろしいでしょうか。

(はい)

教 育 長 それでは、委員の紹介をいたします。
高野教育長職務代理者。

高 野 委 員 高野です。よろしくをお願いいたします。

教 育 長 青木委員。

青 木 委 員 青木です。よろしくお願ひします。

教 育 長 松澤委員。

松 澤 委 員 松澤です。よろしくをお願いいたします。

教 育 長 上野委員。

上 野 委 員 上野です。よろしくお願いします。

教 育 長 よろしくお願いいたします。
それでは、議事に入ります。

○議事

日程第一 請願第1号 2015年度中学校教科書採択についての請願（継続）
（指導室）

日程第二 請願第2号 板橋区の教科書採択に関する請願（継続）
（指導室）

教 育 長 日程第一 請願第1号「2015年度中学校教科書採択についての請願（継続）」及び日程第二 請願第2号「板橋区の教科書採択に関する請願（継続）」について審議します。指導室長より、一括して説明を願います。

指 導 室 長 では、2件の請願について、説明させていただきます。
いずれも内容は6月25日の教育委員会で説明したとおりですが、署名数に変更がございましたので、報告させていただきます。
請願第2号につきまして、前回報告しました324人に、昨日までに受領いたしました736人を合わせて、計1,060人となっております。
請願第1号につきましては変更なく、910人でございます。
以上でございます。

教 育 長 請願第1号及び請願第2号につきましては、6月25日及び7月9日に開催された教育委員会で審議し、教科書選定作業を適正かつ公正に進めるため、継続審議といたしました。

現在、教科書の審議を行っておりますので、引き続き継続審議とすることで、いかがでしょうか。

では、お諮りします。

請願第1号及び請願第2号については、継続審議とすることで、ご異議ありませんか。

（異議なし）

教 育 長 ありがとうございます。では、そのように決定いたします。

○議事

日程第三 議案第57号 平成28年度区立小・中学校使用教科書の採択について

(指導室)

教 育 長 日程第三 議案第57号「平成28年度区立小・中学校使用教科書の採択について」審議します。

なお、議事運営の都合上、午後2時30分までを目途に審議することとします。
それでは、まず、中学校の「国語」からです。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 それでは、説明させていただきます。

採択事項(1)及び(2)、小・中学校の教科用図書、いわゆる教科書につきましては、種目ごとに4年間は同一の教科書を使用することになっています。

つまり、採択は4年ごとに行うこととなっております。

小学校は昨年度採択を行い、今年度4月から新たな教科書を使用しております。
今年度は中学校で採択を行う年度となっており、来年4月から使用する教科書を採択していただくこととなっております。

(3)の特別支援学級使用教科書につきましては、毎年度、採択替えを行っております。内容については、後ほど、改めて説明させていただきます。

それでは、中学校用教科書の採択についてです。

中学校の教科書ですが、今回、文部科学省の検定を通過しました教科書が9教科、15種目で、66社ございました。

私の方から、種目順に発行者数及び発行者名を説明いたしまして、種目ごとの審議をいただき、それが終わり次第、次の種目の発行者数、発行者名というように説明していきますので、よろしく願いいたします。

それでは、まず、「国語」でございます。

「国語」につきましては、5社でございます。

東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版の5社の中から採択をお願いいたします。

説明は以上でございます。

教 育 長 それでは、質疑に入ります、質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
高野委員。

高 野 委 員 国語についてです。

昨年度の全国学力・学習状況調査やふりかえり調査の結果を見ても、板橋区の中学生にとって、国語は基礎・基本をしっかりと定着することができるもの、また、そのためにも、小学校6年間で学んだことと中学校で学ぶことをつなげていけるということが大切だと思い、この2つの視点から見まして、私は、国語は光村図書出版がいいと思います。

基礎・基本という点では、單元ごとに学習する内容が明らかで、目標とふりかえりを重視しています。

各教材の後に、「練習」、「考えを持つ」など、発展的な学習もできるようになっております。

調査報告書に、これまで重視されている教材がバランスよく掲載されていて、授業者がさらに授業改善を行う視点があるとありました。

継続して使うことで、今後もさらに先生方が授業改善を進めていただけるのではないかと期待があります。

また、小・中の接続という点では、1年生の初めの「言葉に出会うために」というところがありますが、ここは「小学校から中学へ」という副題がつけられて、工藤直子さんの詩のページになっています。

音読を楽しみながら、中学校の国語が学んでいけて、中学校への導入としては、ぴったりだと思います。

また、季節のしおりというページが、各学年で春、夏、秋、冬と用意されていますが、1年生では季節の詩と二十四節気の暦、2年生では短歌と暦、3年生では和歌・俳句と季語というように、季節を感じさせる写真とともに、1ページずつですが、日本の四季の言葉の美しさや情操を高める、とても素晴らしいページだと思います。

そのほか、文法のまとめも充実しております。

読書に関しても、「読書の世界を広げる」として、各学年でそれぞれ6テーマを挙げて、3年間、様々な作品を紹介し、読書に親しんでいく工夫がされている点もよいと思います。

以上の理由で、光村図書出版を推薦いたします。

教 育 長 ありがとうございます。そのほか、お願いいたします。
青木委員。

青 木 委 員 私も、基本的には高野委員と同じ考え方です。
 といいますのは、ほかの東京書籍、学校図書、三省堂、それから、教育出版、一応、ざっと目を通させていただいた中では、課題の点で、光村図書出版というのが課題になりそうな点が少ない。

特に板橋の場合は学力にばらつきがあるということも含めて、多くの内容が入っていたり、論理的な作品数というところが多かったり、若干、難解な表現があったり、字体がやや小さくて読みにくいというような様々な課題が所々に見られる部分もあったと思います。

そういった点で、光村図書出版はそういった課題が非常に少ない。バランスよくということ、それから、いい点も多くあったという点で、私も光村図書出版を推奨したいと思います。

教 育 長 松澤委員。

松 澤 委 員 まず、現行の会社を変える必要があるかという点と、あと、それを変わらしたら、なぜ変えるのかということ。その新しく選ぶ会社と違う点を把握しながら全体を進めさせていただいたのですけれども、やはり全社ともまとまって教科

書自体はできているなというように感じた点ではあるんですけども、その中で自分が重視する点としましては、内容とバランス、あと、発展性という、その3つの点を重視して見させていただいたところ、やはり光村図書出版が、内容の面では、表現の部分がすごくよいという評価をいただいていたのと、バランスという面で、読むことの量が発達段階で工夫されているという点を非常に評価させていただきました。

これは、学年によって読む量が違うという点では、すごくこれからの部分でよろしいのかなと感じました。

あと、発展性という面、その3つの点を考慮した中で、国語の方は光村図書出版がよろしいかと判断させていただきました。

教 育 長 ありがとうございます。
 上野委員。

上 野 委 員 私も光村図書出版を推薦したいと思います。
 調査報告の内容で、発達段階に応じてバランスよく作品が掲載されており、自分で調べるような主体性や研究心を養う構成となっているという部分を一番推薦したい。

私なりにプラン面を考えたところ、1年間の学習見通しが冒頭で明確に掲出されているため、文章を通して学ぶべき内容を把握しやすいというところを一番重視しました。

以上の理由から、光村図書出版を推薦したいと考えております。

教 育 長 ありがとうございます。
 私の方も、今、各委員からお話が出て、1つ大きなポイントだと思うのは、小中連携というところと、学力ということで基礎的・基本的な学習内容の習得、そして、主体的、あるいは協同的な学習がとれるか。

さらには、それとかぶるようですけども、主体的に学ぶ意欲につながるような教科書構成ができているかという点で、私も光村図書出版の、最初の1年生にあります「言葉に出会うために」というのは非常に素敵だなと思っています。

ただ、三省堂の言語活動を意識させる導入もすごく興味はあるのですが、三省堂は、文字がやや小さい。

ぱっと見たときに、光村図書出版は、同じ単元を見たときに、子どもたちにとって見やすいのではないかということ。

そして、「学習の見通しを持とう」、「学習を振り返ると」、あるいは、古文や漢文が現代文と併記されていて、いわゆる子どもたちが自分で調べて学習できる、主体的な学習、問題解決型学習につながるという点で、私も光村図書出版を推薦したいと思っています。

以上、お話を伺っている中で、「国語」については光村図書出版を仮採択いたしますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 次に、「書写」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 続きまして、「書写」でございます。

「書写」につきましては、5社でございます。

東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版の5社の中から採択をお願いいたします。

説明は以上でございます。

教 育 長 では、意見等がございましたら、ご発言ください。

高野委員。

高 野 委 員 書写ですが、国語の教科書との関係性、あと、小学校との接続という2つの点で見えてまいりました。

今、国語の方も光村図書出版が仮採択され、小学校との接続という点でも光村図書出版がいいと思います。

調査報告書にも、国語科との関連が深い内容であるということ、それから、題材として、小中のつながりが捉えやすい内容であると書いてあります。

現在、小学校でも光村図書出版の書写を使っているのので、中学生になっても抵抗なく使っていけるのではないかと思います。

内容ですが、「学習の窓」で、文字の特徴や書き方を理解するためのヒントが示されているので、基礎・基本がしっかりと押さえられるようになっています。

その後、「学習を振り返る」で、目標が達成できたかどうかを自己評価して丸か三角を記入するようになっているので、具体的に自己評価できる点がとてもよいと思います。

また、資料編の日常化に関する内容が充実しておりまして、手紙の書き方や送り状、願書、原稿用紙の使い方など、日常生活の様々な場面で、学んだことが生かせるようになっています。

このページを見て、宅配便の送り状の書き方などで、依頼主の欄に自分に向けられた敬語の「御」とか敬称の「様」を二重線で消すことが書かれていて、私自身も、今回これを見て大変勉強になりました。

以上の理由で、書写は光村図書出版を推薦したいと思います。

教 育 長 ありがとうございます。

では、青木委員、どうぞ。

青 木 委 員 私も、全体としては、先ほどの高野委員の意見も含めて、光村図書出版がよろしいのではないかと考えています。

ほかにも若干いいなと思ったのがありましたけれども、やはり現場の先生方の意見も聞いて、課題となる点も少のうございますし、特に区民のアンケートでは、光村図書出版が見やすく良いといった意見等もありまして、そういったところでは、先ほど高野委員が言われたように、小学校とのつながりですとか、国語の教科書との連携も含めて、光村図書出版がよいのではないかと思います。

教 育 長 ありがとうございます。
 では、松澤委員、いかがですか。

松 澤 委 員 私も、光村図書出版のものでよろしいかと思います。
 理由は、現行のものであるということと、国語の方で光村図書出版を選ばれたという2点があって、この2つの要因から、光村図書出版でよろしいかと思っております。

教 育 長 ありがとうございます。
 上野委員、お願いいたします。

上 野 委 員 各社ともに、内容的に余り差がないように思えます。
 近年、私が指導していて感じることの1つに、自立心の乏しさがあります。
 先ほど高野委員が言われていましたが、私は、一番、願書の書き方や、また、「御中」を取り入れての封書の書き方など常識的なことの指導を考え、光村図書出版が優れていると思いますので、現状維持でいいかと思います。

教 育 長 ありがとうございます。
 私も、光村図書出版を推薦したいと思っております。
 今出ている資料編の日常化に関する内容、時候挨拶、それから、手書きで具体的に載っているというあたり、パソコンが当たり前の世界ですけれども、手書きということの重要性を訴えているということ、それから、先ほど申し上げましたように、主体的に、問題解決的にといいところでは、振り返りをするときの言葉に工夫がよく施されていて、自己評価ができるという意味合いでも効率的な教科書であると思っております。
 では、「書写」についても、4人の委員の皆さん、そして、私が光村図書出版ということで、光村図書出版を仮採択とすることによろしいでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 では、「書写」は、光村図書出版を仮採択とします。
 次に、「社会（地理的分野）」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 続きまして、「社会（地理的分野）」でございます。

地理につきましては、4社でございます。

東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版の4社の中から採択をお願いします。

説明は以上でございます。

教 育 長 では、質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
高野委員、お願いします。

高 野 委 員 地理は、基礎的内容がしっかり学べて、新しい情報についても盛り込まれているという点から見て、帝国書院か日本文教出版がいいと思います。

帝国書院は、調査報告書に、「変化している最新の内容が、世界、日本の単元でも十分に盛り込まれ、地理的な時代の変化に即した内容である」とあります。

見開き1ページの中に、「確認しよう・説明しよう」とあり、そのページで学習したことを反復して、基礎をしっかり定着させることができるつくりになっています。

また、日本の様々な自然災害という項目で、地震と津波が東日本大震災の津波の写真とともに、詳しく扱われていました。

また、身近な地域の調査ということでは、練馬区が取り上げられています。板橋区ではなくて残念なのですが、光が丘団地や川越街道など、板橋区の私たちにも身近な内容が載っています。

あと、もう1社、日本文教出版です。

最新の内容が十分に盛り込まれ、時代の変化に即した内容だと思います。

新しい点では、EU統合による経済の変化の項では、ユーロ危機についても触れて、ギリシャですとかIMFというような名前も出てくるので、大変新しさを感じました。

資源エネルギーの項目で、原子力発電所の事故と再生可能エネルギーについて、2ページにわたって扱って、今後の電力について考えさせる内容になっています。

また、巻末の用語解説が、重要な用語について索引の形でコンパクトにまとめられているので、非常に役立つと思いました。

関東地方の地域からのメッセージで、ニュータウンから見る結びつきの変化という項目で、高島平団地が取り上げられています。

1972年に建設が始まり、40年経って高齢化が進み、それに対して、大学が協力して、外国人留学生に貸して、地域の高齢者と交流を図る取り組み、団地の古い部屋を改修して、幅広い世代の人々を団地に呼び込む取り組みなどについて紹介しています。ぜひ、板橋区の中学生に読んでほしいページだと思います。

以上の理由で、帝国書院か日本文教出版のものがいいのではないかと思います。

教 育 長 ありがとうございます。よろしいですか。
青木委員。

青木委員 4社の中で、社会と地理はできるだけ新しい情報が盛り込まれているものがよいのではないかと考えています。

そういった意味では、高野委員と一緒に、帝国書院、日本文教出版が新しい内容をふんだんに盛り込んでいるという意味で、推奨したいというところがございます。

あと、現場の先生等の意見等も踏まえて、私自身が感じたのは、この2つの中では、帝国書院の方に若干課題になる点が見受けられたということ。

また、日本文教出版は、同じく新しい内容を盛り込まれていると同時に、高野委員がおっしゃったように、板橋区の内容も紹介していただいているということは、ぜひ、板橋の中学生には読ませたいという点を含めて、私は日本文教出版を推奨したいと思います。

教育長 松澤委員、よろしいですか。

松澤委員 私は内容と発展性という点を重視して見させていただいたので、小学校と中学校の枠組みというのを、地理の分野は変えていく方がよろしいのではないかなと、中学では少し広い視野を持っていくようなニュアンスで進められている教科書をということで、帝国書院と東京書籍を推薦させていただきます。

理由は、帝国書院のものは、現行であるということもありますし、あと、地図との関係がすごく分かりやすかったという点。

また、副学習の意味では大変優れた構成になっているという評価をしていただいた点が、非常に評価できるのではないかなと考えます。

しかしながら、今、青木委員がおっしゃったように、やはり評価の課題となる内容が多いという点が挙げられているので、そちらを、これからICT化に関するものなどもそうですけれども、少し改善していただきたいという点ではあります。

東京書籍の方は全体的にバランスがよかったというのと、また、内容の面では、非常に全体的に内容が詰まっているという、そういった印象を受けたという点があります。すごく見やすかったという点。

また、子どもの目線でいくと、生徒の学習意欲を沸かせたり、作業方法も理解しやすいという点が非常に評価できるのではないかなと感じたので、私は、帝国書院と東京書籍を推薦したいと思います。

教育長 ありがとうございます。

上野委員。

上野委員 私は、地理は帝国書院を推薦させていただきます。

調査報告で幾つか挙げさせていただきますが、世界、日本の諸地域での変化に対し、最新の記載がされ、新しく生み出された用語も使用されている。

2番目として、基礎的技術を身につけるコラムが充実している。

徐々に高度な内容になるコーナーには、適切な資料が用いられ、発展内容としては地震について理科的要素の説明となって分かりやすいというところで、私の結論としましては、「確認しよう・説明しよう」を丁寧に行うことによって理解を深めることができるということと、解説が分かりやすいということで判断させていただきました。

以上です。

教 育 長 ありがとうございます。

私は、2社を推薦いたします。

1つは、教育出版、1つは帝国書院です。

教育出版については、小中接続の意味合いから、「地理の学習を始めよう」、「地理にアプローチ」が記載されていて、地理の学習の意味、地図やグラフの読み方が非常に分かりやすく説明されています。

それから、「現代日本の課題を考えよう」、「地域から世界を考えよう」という地理の学習があること。

そして、もう1つ、これは東京書籍もそうですけれども、非常に文字の大きさが子どもたちに読みやすいかなと思っています。

さらに、実は竹島や尖閣諸島を扱っている内容の終わり方が、他社においては現状説明で終わっているのですが、教育出版は、「領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて、平和的な解決を目指すことが重要です」という、これは非常に今の日本にはとても重要な、子どもたちに考えさせる文言かなというところを感じました。

帝国書院については写真や資料が適切に載っておりますし、単元ごとに「地域学習の初めに」ということで写真があって、「授業の初めに」、「授業の後に」、「各地域学習の後に」という流れが各単元にあって、子どもの主体的な学習に合致しているかなと思っています。

それから、世界や日本の諸地域などの変化に対して最新の記載が見られていた。さらには、地理の基礎的な技能を身につけるプランが25あって、先ほど上野委員がおっしゃっていたように、段階を経ながら徐々に高度な内容となっているところ、身近な地域が練馬なのは残念ですけれども、先ほどの高野委員から、身近な地域というところで、練馬区が載っているところも1つポイントかなと思っています。

今、かなり色々のご意見をいただきました。

基本的に、青木委員が日本文教出版ということで、ほかの委員と私を含めて、2つほど出しているわけですが、いかがでしょうか。

今のお話を聞く中で、何か、さらにご意見があればお出しただければと思います。

青 木 委 員 日本文教出版のお話をしましたが、私も、帝国書院というのは候補に最後まで

残っておりました。そういった意味では、皆さんの意見を総合すると帝国書院がよろしいのではないかなと思います。

教 育 長 話をまとめてまいりますと、帝国書院を仮採択とすることになるようですが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「社会（地理的分野）」については、帝国書院を仮採択といたします。

次に、「社会（歴史的分野）」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 続きまして、「社会（歴史的分野）」でございます。

歴史につきましては、8社でございます。東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社、学び舎の8社の中から採択をお願いします。

説明は、以上でございます。

教 育 長 では、質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
上野委員。

上 野 委 員 歴史につきましては、私は東京書籍を推薦したい。

調査報告のところの、工夫点、特徴ということで印象に残ったのが、因果関係、原因、背景について簡潔である。写真、地図、グラフ等、配分が適切である。どの時代を学んでいるかが見開きで記載されている。様々な学習方法やプレゼン等が紹介されている。

発展学習では、進化が図れる内容であるということで、私なりのプラス面を考えたところ、写真や資料が豊富に取り入れられており、また、見開き下部にある左の年表は、常に学んでいる時代を確認することによって時代の骨組みが理解できるようになる。

見開きの右は、丁寧に取り組むことによって記述力の向上に期待が持てるというようなプラス部分を考えまして、東京書籍を推薦したいと考えております。

教 育 長 松澤委員、よろしいですか。

松 澤 委 員 私は、歴史の方は、今おっしゃった東京書籍と帝国書院の2社を推薦したいと思います。

全体的なバランスという点で、その2社のものが非常に評価されているという点と、あと、今おっしゃったインデックスの、教科書を見ながら時代を学べるという点をすごく評価しています。

私の方は、上野委員とは逆に、東京書籍ではなく、帝国書院を第一候補にしておりまして、それは、見開き年表のところがすごく見やすいという点を非常に評価しております。

時代が一目で分かるという点がほかのところと違うのかなと感じておりまして、やはり歴史というのは、年表と地図、色々なそういったものを加味しながら勉強していくのが非常によろしいかなと感じたので、私は帝国書院、そして東京書籍の2社を推薦したいと思っております。

教 育 長 青木委員。

青木委員 私も、2人と結局は同じで、ただ、決めかねているのは、東京書籍と帝国書院。意見は、お2人から出ているものとほとんど同じでございます。

あと、区民アンケート等の結果を見ても、皆さんも東京書籍と帝国書院に関しては否定的な意見が少ないようでしたので、その点を含めて、この2つのうちのどちらかによろしいのではないかと思います。

教 育 長 高野委員。

高野委員 歴史と公民に関しては、非常に多くの方からご意見をいただいております。

調査委員会からの調査報告書や学校調査研究資料、区民アンケートを全て丁寧に読ませていただきましたが、歴史の教科書については、読む人によって大きく評価が分かれるということを感じました。

そこで、歴史の教科書採択に当たり、事実を色々な立場の見方から捉えることができるもの、中学生が自分の考えを発表して、ほかの人と意見を交換する中でより学習を深めていくことができるもの、この2点を中心に教科書を読みまして、私は帝国書院がいいと思いました。

1つ目の色々な立場の見方から捉えるという点では、調査報告書に「帝国書院のものは編集方針がしっかりしており、現在の歴史学で分かるようになった点を反映していて、様々な観点から歴史を捉える内容となっている」とあります。

庶民の観点から歴史を捉えたり、アイヌや沖縄の人々の視点、近現代では、日本の立場の見方にとらわれず、様々な立場からの視点など、バランスのとれた書き方になっていたと思います。

また、2つ目の、ほかの人と意見を交換する中で深めていくという点では、各章の最後に、「学習を振り返ろう」というところがありまして、そこで学習した内容を振り返って整理し、クラスやグループの中で話し合ったり、新聞をつくったりという作業をさせています。

そのほかにも、「トライアル」というページでは、テーマを提示して、意見をまとめて、話し合っ、学習したことをさらに深めるということができるようになっている、そういった点がいいと思います。

以上の理由で、私は帝国書院がよろしいと思います。

教 育 長 私も、帝国書院を推薦したいと思っています。

東京書籍も内容的に本当にいい教科書であるなと思っています。特に最後が、持続可能な社会という結びも大変子どもたちにとっては興味がありますし、現代的な課題提供だなと思っています。ただ、実際に子どもたちが学ぶというところで見るときに、まずは小中の接続というか、歴史の学び方の学習でスタートしているのが、帝国書院。

小学校で学んだことを想起させて、さらに歴史の調べ方を身近な地域の歴史を通して学ばせる。ここにアクティブラーニング的な発想がきっちりと入っていて、たくさんのことを記憶して再生するというのではなくて、問題解決的な、能動的な学習の重要性を訴えています。

見開き1時間の流れ、さらには各章のはじめの「タイムトラベル」は、視覚的にその時代を分かりやすくイメージできるような内容です。

そして、各部の初めに、今あった「タイムトラベル」それから、「授業の始めに」、「授業の後に」、「各時代の後に」、「学習の振り返り」という流れが、これも地理も同様ですけれども、子どもの問題解決型の学習に非常に大きなつながりがあるのではないかと。

そして、1つ、233ページの原爆被害者森脇瑤子さんは、広島平和の旅で、実のお兄さんに体験談を語っていただいているという、板橋ともゆかりがあるというところがございます。

さて、今、帝国書院を3人の方が強く推すということで、東京書籍もという意見もあるというところですが、このあたりはいかがでしょうか。

よろしく願いいたします。

青 木 委 員 皆さんの意見を伺いまして、先ほどの地理との兼ね合いも含めてかもしれないですけれども、帝国書院がよろしいのではないかと思います。

教 育 長 今、帝国書院という意見がありましたが、その他ご意見はございますでしょうか。

特段なければ、帝国書院を仮採択とすることにご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 ありがとうございます。

「社会（歴史的分野）」については、帝国書院を仮採択といたします。

次に、「社会（公民的分野）」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 続きまして、「社会（公民的分野）」でございます。

「公民」につきましては、7社でございます。

東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の

7社の中から採択をお願いします。

説明は以上でございます。

教 育 長 では、質疑、意見等がございましたら、お願いいたします。
松澤委員。

松 澤 委 員 公民も、まず、数社に絞り込むところから始めさせていただいて、どういった論点をというところで色々あるとは思いますが、一般の方のご意見ですか、保護者のご意見、あと、教員の皆さんの声とか、専門家の意見を総合しまして、私の方は、清水書院と帝国書院と東京書籍の3社を挙げさせていただきたいと思います。

その3社を挙げさせていただいた中で、現行の清水書院というところの課題となる点でちょっと気になる点が、グループワークのできる内容が少ないこと領土問題の記述が少ないという点が挙げられていること、あと、最も気になる点のところ「全体的な分量が少ない」というところがございますので、その辺をどう見るかということになってくるかなと思っております。

あとの2社について、帝国書院と東京書籍のところは、全部の教科書で、最後のページにこういった内容が載っているのですが、子どもたちの社会とのつながりを非常に重視している内容が載っていたのが東京書籍と帝国書院の2社だけだったのですけれども、そこを非常に考えてつくられているのではないかなという点を私は評価させていただいて、帝国書院と東京書籍、そして、現行の清水書院を挙げさせていただきたいと思います。

教 育 長 上野委員。

上 野 委 員 私は、東京書籍を推薦したいと考えております。

若干、課題のところ「見づらい」と挙げられているのですが、反面、絵や図、表、グラフ、写真の資料が多く、生徒の理解を助ける、個人やグループで行う作業や活動のコーナーが設けられているため、文章の学習を深め、見分けを広げることができるのではないかということから、東京書籍を推薦したいと考えております。

教 育 長 青木委員、どうぞ。

青 木 委 員 私も、こちら迷ったのですが、基本的には、東京書籍、それから、帝国書院になるかなと思ってます。お2人から出た意見と基本的には同じですが、若干、東京書籍が確かに全体的なバランスとしてはちょっといいかなと個人的には感じております。

教 育 長 では、高野委員、お願いします。

高野委員 私は、公民では、基礎的・基本的な知識が習得できるもので、現代社会の課題について新しい情報が押さえられているもの。また、それらの知識を活用して、討論などを通して深めていくことができるもの。さっきの歴史と同じですけれども、子どもたちの学習を発展させていくところを注目して見てきました。

以上の2つの点から見て、帝国書院か日本文教出版、この2社のものがいとおもいました。

帝国書院については、沖縄の基地問題や集団的自衛権などもしっかりと書かれています。

「トライアル」というコーナーで、「ディベートで議論を深めよう」、「新聞から身につけるメディアリテラシー」、「裁判員として判決を考えてみよう」など、発展的な内容が充実しています。やはり、こういうところを利用して、子どもたちにも、現代の社会にある問題を自分たちのものとして主体的に学んでいてもらいたいなと思いました。

あと、日本文教出版ですが、こちらは、毎回、学習の課題に対して、「確認」と「活用」を進めて、知識が定着できるようになっています。

時事的な内容もしっかり取り上げて、新聞記事が多く使われているので、非常に紙面から新しさを感じることができます。

「チャレンジ」というコーナーで、表現の自由をブレインストーミングで、また、1票の格差をディベートで、地球温暖化をロールプレイでと、深めていく学習が面白いと思いました。

また、「15歳は子供、それとも大人」というところで、自分たちが15歳の権利や義務を考え、その中で18歳の選挙権についても触れています。

また、「15歳のハローワーク」というところで、将来やりたいと思っている職業を調べるなど、中学生が身近に感じられるテーマで主体的に学んでいけるというようなところがとてもいいと思います。

ですから、私は帝国書院か日本文教出版で、どちらかといえば日本文教出版を第一に、第二番目に帝国書院というような気持ちでおります。

教育長 ありがとうございます。

私は、東京書籍、あるいは、日本文教出版。

清水書院の方ですが、他社では第1章で取り上げている「私たちの現代社会」が序章として位置づけられているのですが、文字が多くて、子どもたちに導入としてどうなのかなという、興味・関心というところを少しネックに感じました。それに比べて、他社は非常に第1章が読みやすくなっているかなと思っています。

私は、実は日本文教出版を第一に推したいと思っています。

1つは、新聞記事が非常に効果的に使われて、臨場感があるということ。

それから、今、高野委員がおっしゃったように、「チャレンジ公民」の欄で、いわゆるブレインストーミングやディベート、議論、ロールプレイなど、本当にアクティブラーニングを意識した学び方が記載されていて、これは教員にとって

も非常に役に立つ、参考になる、色々な学習が期待できる内容かなと思っています。

同様に、「アクティビティ」というコーナーがありまして、学習が深まる具体的な作業学習が提示されています。

そして、文字的にも、字の間が非常に余裕があって、読みやすいということ。そして、日本文教出版は写真でなく、絵の説明がとても柔らかくて、分かりやすいかなという印象を受けました。

これは東京書籍も同様ですけども、東京書籍はスーパーマーケットからの導入が非常にユニークで、身近な問題も入っているかなと思いますが、私は、日本文教出版を第一にと思っています。

というところで、清水書院、帝国書院、日本文教出版というところで、青木委員、上野委員は東京書籍、松澤委員も東京書籍、高野委員と中川については日本文教出版という形ですが、ご意見を少しいただければと思っています。

どうぞ。

高野委員　やはり公民を学ぶということは、これから中学校を卒業して進学したり社会に出ていく、そういうところで、現在起きている問題について、中学生たちが自分の身近な問題として捉えて、それを主体的に考えていくということがとても大切な教科ではないかなと思いました。

そういう意味で、教科書に書かれていることもそうですけれども、そこからどう発展させていくかという点で、私は、みんなで話し合い、作業を進めていく中で学習を深めていくことがとても大切だなと思っています。

教育長　松澤委員は3つを挙げていただいたのですが、その中でという形になるとどうでしょうか。

松澤委員　やはり、皆様のご意見と同じような形にはなるのですけれども、どこを評価するかというところに相違が出ているのではないかと感じていまして、私は、社会全般がそうなのですけれども、公民の分野も新しい分野のものが取り入れられているという点と、また、子どもたちが身近なこういった社会とのつながりという点を評価させていただいたので先ほど言った3社になったのですけれども。

あとは、課題となる点がどの会社もございますので、そこをどう重要度を見るかという点になってくると思います。

やはり、先ほど高野委員がおっしゃった点で、グループワークとか、そういったものを重視していくと、最初に挙げさせていただいた清水書院はそういったものの広がり性がないという点では難しいかなと感じておまして、東京書籍、帝国書院というところで、新しい分野の地域と子どもたちのつながりという点をどう見るかという点にはなってくると思います。

教育長　ありがとうございます。

本当は、公民であれば、いわゆる18歳が選挙権になっているところについては、会社もそれほど。時期的な問題もあるでしょうけれども。

松澤委員　あと1点だけ。課題の部分で考えていくと、東京書籍の方は資料集というか、資料の内容が非常に多いという点が課題となっていますので、そちらをどう捉えるかということになってくるかと思しますので、お2人がお話ししていたグループワークですか、実際にそういったものを中心に考えていくと、この東京書籍のところでは資料数が多い、資料の割合が多いという指摘があったところは気になりました。

青木委員　これは授業を進める上で、現場の先生が、資料集と行ったり来たりするようなところは時間配分が難しいとか、そういったものも現場では含まれているという意見になるでしょうか。

教育長　恐らく、社会については別に資料集みたいなものを多分用意しているのだらうと思うのですけれども、ですから、教科書だけよりも、別に資料集があって、そこを見比べていくという学習。
室長、どうですか。

指導室長　実際、学校現場では、別に、生徒にもう1つ資料集というものを与えている学校が多いかと思っております。

青木委員　それは、それぞれの先生の工夫でやられている。

指導室長　各学校でということです。

青木委員　そうしますと、その辺が、先生方から見ると課題になるとすれば、この辺は考えないといけないかと思いました。

教育長　上野委員、いかがですか。
どうぞ、本当に、ご自身のお考えをお話しいただければと思います。

上野委員　今までの流れだと清水書院が使われていたということだったのですが、私は来たばかりだったので、そういう先入観がなく、東京書籍の課題にあった「見づらい」というところが挙げられている反面、それぞれの絵や図、表、グラフというものが多くの生徒の理解を助けていくのではないかなと、そして、グループで作業を行うという場に活用できるのではないかなと考えましたので、東京書籍1つを推薦するという形で判断したのですが。

教育長　東京書籍の場合に、その資料の多寡というか、それが1つ課題として挙げられ

ていますけれども、ボリューム的には、それほどでも。

実は、東京書籍は、基本的人権のところは、ほかのところは自由権から入っているのですけれども、東京書籍だけが平等権から入ってきています。

「平等のもとに」という考え方が東京書籍の場合は根底に入っています。あとの教科書については、基本的に自由権から入っているというような流れになっています。

高野委員　それでしたら、保留にさせていただいて、休憩時間に、私は、実は読んでいく中で、日本文教出版か帝国書院ということで、その2社を重点的に読んでいて、東京書籍については余りよく読み込んでおりませんので、短い時間ではありますけれども、休憩時間に、もう一度、自分なりに確認したいと思います。

この3社に絞ってよろしいのでしょうか。

教育長　東京書籍、日本文教出版、帝国書院、この3つということでよろしいですか。

高野委員　はい。もしそれが許されるのであれば、休憩時間に、この3社を、もう一度、確認させていただきたいなと思うのですが。

教育長　いかがですか。

上野委員　我々も同じです。

教育長　よろしいですか。

(はい)

教育長　では、午後一番ということで、審議の方は保留という形で午後に回したいと思います。

次に、「地図」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指導室長　続きまして、「地図」でございます。

「地図」につきましては、2社でございます。

東京書籍、帝国書院の2社の中から採択をお願いします。

説明は以上でございます。

教育長　では、「地図」について、よろしく願いいたします。

松澤委員。

松澤委員　地図の分野は、先ほど地理の方もそうだったのですが、帝国書院を推薦したいと思えます。

地図分野、地理、歴史等、関係することが非常に多いので、つながりという点を1つ挙げたいのと、あとは、主観的な意見と客観的な意見の両方ですが、見やすいという点を考慮させていただいて、帝国書院を推薦したいと思います。

教 育 長 では、上野委員、お願いします。

上 野 委 員 私も帝国書院を推薦したいと思います。

AB判に拡大されて、図角や範囲が大きくなり、各地域の様子だけでなく、他地域とのつながりも意識する構成になっている。生徒にも考えさせる教材として適切であると考えます。

教 育 長 ありがとうございます。
青木委員。

青 木 委 員 私もお2人と同じで、帝国書院は既に地理で選ばれていることでもありますので、その辺との連携というか、考えも含めて、帝国書院でよろしいかと思えます。

教 育 長 高野委員。

高 野 委 員 私も帝国書院がいいと思います。

まず、地理は先ほど帝国書院を仮採択したということと、小学校でも帝国書院の地図を使っているということ、帝国書院の地図は、色彩が鮮やかで、見やすい点が大変いいかと思えます。

「地図を見る目」や「やってみよう」というところで、地図から読み取る学習や発展的な学習もできるようになっています。

見ていく中で、中部地方のところで、「東海道を東へ、西へ、修学旅行に行こう」というページがあって、現在の地図の下に、五街道の宿場町や旧国名が書いてある地図が載っておりまして、新旧の旅の様子も対比できるようになっていて、大変面白いなと思いました。

また、世界遺産の富士山のページがあり、迫力ある衛星画像の写真と、付近の地図、世界遺産、構成遺産リストなどが掲載されていて、中学生は、関西の方に修学旅行に行く学校も多いので、大変興味深い、面白いページだなと思っております。

教 育 長 ありがとうございます。

私も帝国書院ということですが、アジアの区分が、東京書籍は、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、環地中海というような分け方をされていますけれども、子どもにとって見ると、東アジア、東南アジア、南西中央アジアの方がフィットしてくるのかなというところもあります。

さらには、色彩的にも鮮やかで見やすいというようなイメージを持っています。

というところで、皆さんの意見を伺いますと、「地図」においては、帝国書院を仮採択ということでご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 ありがとうございます。
 「地図」につきましては、帝国書院を仮採択とします。
 では、次に、「数学」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 続きまして、「数学」でございます。
 「数学」につきましては、7社でございます。
 東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館、数研出版、
 日本文教出版の7社の中から採択をお願いします。
 説明は以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。では、ご意見等をお願いいたします。
 松澤委員。

松 澤 委 員 私は、数学は現行である東京書籍を推薦させていただきたいと思います。
 まず初めに、課題となる点も余り多く見受けられないという点があつて、現行
 のものを薦めたいという点と、もう1点は、紙の問題で、ちょっと薄くなってい
 るという点があつて、それが逆に非常によろしいのではないかなと思った点と、
 2点です。
 あと、今回は東京書籍を推薦させていただいたのですけれども、ほかの会社で、
 よかった会社としては、大日本図書というところが非常に理数の分野では発展的
 な内容などをやられていたので、これからすごくいいのではないかと感じました。
 以上です。

教 育 長 ありがとうございます。
 上野委員、お願いします。

上 野 委 員 私は東京書籍を推薦します。
 調査報告の中で一番印象的だったのは、間違い例が記載されているというところ
 です。
 あとは、全体的に章の導入が充実しています。練習問題も適度な量と考えられ
 ます。ノートの使い方が明確に記載されていますし、全体を通してバランスのと
 れた教材だと考えますので、東京書籍を推薦いたします。

教 育 長 青木委員。

青木委員　　ちょっとこだわりがあるのですけれども、ほかの委員の皆さんはどこの視点で見られているのか分かりませんが、私は、1つがアクティブラーニング、それから、実学という点を重視して見させていただきました。

よく言われるのは、数学というのは社会に出て役に立たないというようなことが盛んに言われたりしている昨今の事情がございますが、数学でも、社会に出てこんなことに役に立つというようなところを意識して書かれているところが非常に重要だと思います。そういう意味では、東京書籍。

それから、導入の部分というところで、かなり工夫されていて、興味を持たせるような書き方をされているという点では、数研出版。

それから、アクティブラーニングという、これは、これから非常に重要になってくると思います。文部科学省が言っているところに、これからの子どもたちは、センター入試が現在の6年生の受験時に大きく変わることが表明されていて、中学1年生からもだんだん変わっていくところで、理数系というところの、それに対する対応が非常に重要だと思っております。

ですから、アクティブラーニングという点を含めると、発展的なところでどれだけきちんと、興味を持った子たちがどんどんやっていけるようなつくりになっているかという点を見てもみますと、これは意見が分かれるところですが、新興出版社啓林館。

これは別冊という形で用意されていて、ここで興味・関心を持った子たちがどんどん先へ進むことができる、これは1つ重要なポイントだと私は個人的に思っていますので、正直、絞り切れませんでした。ですけれども、東京書籍、新興出版社啓林館、数研出版、この3社のいずれかがよいのではないかと考えています。

教 育 長　　ありがとうございます。
高野委員。

高野委員　　私は、やはり数学についても、板橋区では基礎・基本をしっかり定着させていくことが大切かなということで、その点で、東京書籍としました。

上野先生の方からもご発言がありましたけれども、生徒が間違いやすい例が示されていて、大変分かりやすくなっています。

具体的に見てみまして、3年生の二次関数のところでは、二次関数のグラフの変域を求める問題で、間違い例として、一次関数と同じように考えたために起こる間違いを示しています。

そして、巻末の間違い直しのページで、間違えた理由、それから、正しい方法がしっかり説明されているので、子どもたちが自分で基礎・基本を確認しながら進めていけるつくりになっているのかなと思しました。

また、2年生の平行四辺形の性質の証明問題も見てみたのですが、他社のものに比べて、必要な部分が整理されていて、私は一番分かりやすくなっているかなと思しました。

それと、1年生の教科書の角の二等分線を描く作図では、教科書の上の隅のと

ころを実際に折って、折り目の両側にできる角の大きさを調べられるようになってい

るのです。

ですから、子どもたちが学習、作図に入る前に、興味深く取り組むことができるのかなと想像してみました。

また、「学び合い」のページや「マイノート」で、自分の考えや友達の考えを伝え合っ

て深めていく方法が分かりやすく書かれています。人の意見を聞いて、自分がさらに進めていく、そういうことができるつくりとなっています。

1年生の平均を求める問題のマイノートを見たのですが、実際のノートを使って、自分の考えや友達の考え、それから、考えの違い、同じところ、そういったところを話し合っ

てまとめているので、自分でノートを書くときに大変参考になるのではないかなと思いました。

以上の理由で、東京書籍がよいのではないかと思います。

教 育 長

私も東京書籍を推薦したいと思っています。

板橋の学力の統計を見ると、基礎的・基本的な学習内容の定着、それから、学び方というところ

で、東京書籍の場合は例と問の間に確かめの問題が入っていたり、スモールステップを意識して教科書がつくられていたりというところ、それから、繰り返

し学習ということで、基本の問題、補充の問題が充実している。そして、今、高野委員がおっしゃったように、実は、板橋は協同学習、学び合いということ

を1つの授業改善、授業改革の柱にしています。

問題解決型、探求型と協同学習、そして、評価というところですけども、本当にお話のように、まず、出だしに学び合いのページ、「数学マイノート」というところ

があって、私も高野委員と一緒に、50ページ、51ページを見ると、まさに問題、自分の考え、友達の考え、そして同じところと違うところという比較

まできちんと書いてあって、さらに、まとめ、感想、いわゆる自己評価のところでの振り返りというところがきちんと明記されている。

ただ、残念ながら、課題のところ

で、身長

方、実学というところで、他社のよさも、今後また配慮していくということですが、皆さんのご意見をまとめますと、東京書籍の意見が多く、それ以外もいくつかご意見がありました。東京書籍以外のご意見はいかがでしょうか。

特段ないようですので、東京書籍を仮採択することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「数学」は東京書籍を仮採択といたします。
では、次に、「理科」の審議に入ります。指導室長からお願いします。

指 導 室 長 続きまして、「理科」でございます。
「理科」につきましては、5社でございます。
東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館の5社の中から採択をお願いします。
説明は以上でございます。

教 育 長 では、「理科」につきまして、ご意見等、よろしくお願ひいたします。
松澤委員、お願いします。

松 澤 委 員 私の方は、理科に関しましては、やはり先ほども青木先生がおっしゃっていたように、実学という点で、生活とのつながりが多いものや、簡単に分かりやすくそういった説明がなされているもの、あと、写真の鮮明度の点などを考慮しまして、東京書籍と大日本図書と新興出版社啓林館の3つに絞って見せていただきました。
その中で、現行の東京書籍の方が、課題となる点が総合的に少なかったという点と、内容なども充実していたという点、あと、イラストと写真のバランスなど、そういった点がよろしかったということで、東京書籍を推薦したいと思います。

教 育 長 上野委員、どうでしょうか。

上 野 委 員 私は、東京書籍を推薦したいと思います。
全体的に資料が非常に見やすい。そして、「考察しよう」、「調べよう」、「レッツトライ」というような吹き出しのポイントが非常に興味を持って学習できるのではないかと考えまして、東京書籍を推薦したいと思います。

教 育 長 高野委員。

高 野 委 員 私も東京書籍がいいと思います。
まず、巻頭に、探求の流れの例と、この教科書の使い方というページのほかに、レポート作成のためのノートの書き方、考察の仕方、話し合いの仕方、理科室の

決まりなどについて書かれていて、大変、理科の学習を始めるのに使いやすいと感じました。

報告書の中に、導入部で興味深い事象を提示して生徒の活動につなげているということがあったのですが、2年生の物質の成り立ちの章が、「カルメ焼きの秘密」という単元から始まっています。カルメ焼きとホットケーキが膨らんで、中に穴がたくさんあいていることから、炭酸水素ナトリウムを加熱したときの実験につなげていっています。

理科が余り得意ではないなという生徒も、こういう導入の仕方なら、興味を持って入っていけるのではないかなと思いました。

また、実験の予想やヒントの記載があるので、実験の内容がとても分かりやすくなっています。

また、同時に、安全のための注意というのが赤い字で書かれているので、大変目立って、効果的となっているなと思いました。

あと、松澤委員からの発言と同様で、カラー写真や最新の写真が効果的に使われていて、1年生の観察では、色、大きさなど、他社に比べて大変見やすくなっているということです。

あと、もう1ついいなと思ったのは、各単元の章ごとに、「科学でGO!」という読み物が載っています。

スポーツドリンクや、パーマ、あと魚をおいしく食べるためにはなど、身近なことから、地球温暖化や福島第一原発の事故など、様々なテーマについて分かりやすく書かれていて、ちょっとした豆知識のようなものが身についていく、とても面白いものだなと思いました。

以上で、私は東京書籍がいいと思います。

教 育 長 青木委員。

青木委員 皆様のお話を聞いてというようになってしまうのですけれども、私も、東京書籍は従来も使われているという点でも評価したいと思っているのですけれども、先ほどの数学と同じで、これからの世の中の変化に伴ってということ意識することが、今、教育の中で求められているというこだわりが相変わらずあります。

そういう点では、発展的にできるものという視点も重要ななと思っていて、東京書籍というのは、板橋の子どもたちには非常に合ったレベルだなというのを重々感じています。そこは皆様のご意見に絡むのですけれども、伸びる子を伸ばすためにはという意味では、新興出版社啓林館さんもいいなと思って、私はこの2つを推奨したいと思っています。

教 育 長 ありがとうございます。

私は、やはり東京書籍を推薦したいと思っております。

板橋の子どもたちに主体的に問題解決的な学習ができるような流れになっている、各節の学習課題であるクエスチョン、課題を示して、観察や実験の方法があ

り、説明や解説が書かれ、最後にブックマークがまとめとして示されていて、丁寧過ぎるかなと思いますけれども、それを使って教師も指導しやすいのではないかな。

それから、学習に目的意識を持って臨むことができるので、結論を整理しながら基礎的・基本的な学習内容の定着が図れていくというような、そんな流れが貫かれていると思っています。

それから、小中接続、学びの連続という点では、各学年の目次に、小学校の既習事項が掲載されていて、各章の冒頭などにこれまで学んだことを掲載していて、新しいことを学ぶけれども、それは過去の既習、既に学んだことを生かすという、活用的な意味合いが非常に込められていると思います。

それから、板橋は環境教育というのを重視しているというところでは、先ほど高野委員がおっしゃっていた「科学でGO！」というのが、全部で12カ所ほど掲載されていて、内容も非常に充実しているという感じを受けました。

実は、3年の金環日食の様子に板橋区が掲載されているというのも、いいかなと思っています。

先ほど来出ているように、伸びる力のある子どもたちにとってというよりも、板橋の場合は、そういう基本的な学習内容の確実な定着というところでは、「理科」についても東京書籍を仮採択ということでご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、「理科」については、東京書籍を仮採択といたします。
次に、「音楽（一般）」の審議に入ります。指導室長からお願いします。

指 導 室 長 続きまして、「音楽（一般）」でございます。
「音楽（一般）」につきましては、2社でございます。
教育出版、教育芸術社の2社の中から採択をお願いします。
説明は以上でございます。

教 育 長 では、「音楽（一般）」につきまして、ご意見等がございましたら、ご発言ください。
高野委員、お願いします。

高 野 委 員 音楽ですが、2社ありまして、調査委員会からの報告では、この2社はどちらも内容的には十分であり、余り大きな差はないということでした。

私は教育出版がいいと思います。教育出版では、「日本の歌、みんなの歌」として、あと、教育芸術社では、「心の歌」として、同じ曲が7曲取り上げられています。

例えば、「夏の思い出」など7曲あるのですが、「夏の思い出」では、教育出版の方は、尾瀬の木道や水芭蕉、浮島、しゃくなげの花の写真が載っています。

教育芸術社の方は、小さい尾瀬の全体の写真が載っています。

あと、「花」の写真では、教育出版の方は見開きいっぱいの桜の花と隅田川、それから歌碑が載っていて、この歌ができた明治30年代の隅田川の写真が載っています。

それから、あと、「荒城の月」では、岡城跡の夜の写真が載っている。しかも、しっかり月も写っている。他社の方は、同じお城の昼間の写真です。

ですから、この写真の違いというのは、単なる見やすいとか、きれいとか、分かりやすいということ以上に、写真から、歌詞の意味や情景、また、その曲ができた背景を分かりやすく伝えたいというような配慮の差を強く感じました。

ここが2つの会社の大きな違いかなと感じました。

教育出版については、鑑賞教材についても、学習資料が多くて、資料を用意しなくても十分足りるというように調査報告にもありましたが、鑑賞教材の写真もやはり同じようにイメージを膨らませながら、鑑賞しやすい、魅力的なものが多かったように思います。

内容的な差は少ないかと思ったのですが、私は日本の歌の写真の扱いで、教育出版のものがいいと思いました。

教 育 長 上野委員。

上野委員 私は、教育芸術社の方を推薦いたします。

合唱に力を入れているという印象を持ちました。各中学の行事等の問題もありますが、合唱に力を入れることは、団結、協力、達成感などを味わうことができるのではないかと。また、心の歌として、日本の歌が多いという点。

教育出版の調査報告にある音のスケッチ、琴の縦譜に創作する取り組みは、取り扱いにくいとの記載があり、現状のままの教育芸術社でいいのではないかと考えます。

ただ、1点、調査報告の中で、ビンゴゲームは学習という観点から音楽の授業に適さないということの課題が記載されているのは、審議する必要はあるのかなと考えております。

教 育 長 ありがとうございます。
松澤委員。

松澤委員 私は、教育芸術社を推薦させていただきたいと思っております。

全ての構成がつながっているという点と、古い曲と新しい曲のバランスという点、あと、先ほど上野委員もおっしゃった、「ふるさと」など、そういった日本の曲を使っているという点を評価させていただきました。

あと、関係がある器楽の方になってしまうのですが、教育芸術社の方が即興的なものが多いという点では、実際に適しているのかなと感じたのもあります。

あと、現行のものが教育芸術社であるという点も評価して、教育芸術社の方を推薦したいと感じております。

教 育 長 青木委員。

青 木 委 員 現場では難しいのかもしれませんが、私は気になっているところがあるのですが、音楽の授業は、実際の場面で、例えばICTや何かを少し活用していくという局面があったりするのかなと個人的には思っておりまして、その辺とのつながりを含めて、どちらかなというのを考えていたところです。

教 育 長 電子黒板等は普通教室ということで、専科の教室には、とりあえずは、今のところ入らないということになりますけれども。

教育支援センター長 電子黒板につきましては、普通教室ということですが、各学校に電子黒板は2台から3台ぐらい平均してありますので、移動して使うということは可能でございます。

教 育 長 あと、音楽室には、ビデオですか、DVDみたいなのがありますよね。

青 木 委 員 3Dを教材として使われているとすると、その辺を上手いタイミングで入れられたりというのは、音楽の場合、実技に力を入れるようなことが重要になってくるかなと勝手に思ったりもしていました。

これは、本当に皆様のご意見に従いたいというのはあるのですが、現場の先生たちのご意見が、従来使われてきた教育芸術社ということに重きを置いているのであれば、そこは、今までの議論と同じで、重視しないといけないのかなと個人的には思っているところでございます。

教 育 長 私は、教育出版を推薦したいと思っています。

全体的に、写真も含めて、ぱっと開けると、世界の第一線で活躍している日本人音楽家や演出家のメッセージとか、「With My Heart」がとても素敵で、教育芸術社と比べると、写真が非常にダイナミックに掲載されているとともに、歴史上の音楽家たちの自筆とか、史実に基づいたエピソードなど、資料性も高くて、生徒たちの曲のイメージ、先ほど高野委員もおっしゃったんですけども、いわゆる共通教材の扱いが非常に教育出版は丁寧ですね。

先ほど出た「夏の思い出」なんかもそうですし、「赤とんぼ」も教育芸術社は2ページですか、ところが、教育出版はそれを4ページとか、さらに6ページというような、かなり丁寧さを感じますし、最近の子どもたちが、自然や、そういうものを曲からイメージするというよりも、視覚的な部分からまたさらにイメージアップしていくというような、そんな考え方が大事なのかなというところでは教育出版。

それから、教育出版のいいところのもう1つは、このページの一番左側に、各教材の目標とかポイントが縦書きで示されています。

音楽は、どちらかというと、問題解決的な学習という部分が薄い中で、こういう目当てが書かれていて、そして、教員と子どもが共有し合って授業を進めていくというところでは、非常に価値のある教科書ではないかなと私は思っております。

というところで、これも微妙なところで、教育出版と、教育芸術社の方が現在行われているというところも含めて、上野委員、松澤委員は教育芸術社、高野委員と私の方は教育出版、そして、青木委員の方は。

青木委員　いま、教育長のご意見を伺うと、教育出版の方がいいかなという気にはなっていますけれども。

教育長　もう少し意見を出していただければと思うのですが、どうぞ。

松澤委員　私は教育芸術社を選んではいるのですけれども、報告書の内容ですと、ほとんど差がないというのが現状だと思うのです。

課題となる点も、よいと言われている点も同じぐらいのバランスだと思うので、あとは、どちらのどういうところを重視されるかという点で、やはり今まで使われていた教育芸術社を推すのであれば、そういった方向になるでしょうけれども、やはり新しくここで変えるということであれば、今おっしゃったような意見を重視していくということになっていくかなとは思いますが。

その点で私が1つ感じたのは、やはりどちらも教科書としてはよろしいとは思いますが、表現の方法をどうやって子どもたちに理解していただくかということの表し方が若干変わっているのではないかと感じております。

あと、内容はやはり会社によって色々なものがあると思うので、それをどう判断するかという点になってくるのではないかなと思っていまして、私が一番重視した点は、即興性いわば音楽との関わりというか、音楽を好きな子どもというよりも、むしろ音楽に余り触れられていない子たちに音楽に親しんでいただけるにはどちらだろうということで、こちらの教育芸術社を推薦させていただいたのですが、そういった面では、どちらも遜色ないのではないかなと感じております

青木委員　今の松澤委員のことに對して、興味・関心を持たせるためというので、今、こう2つを見比べてみたのですけれども、全体としてぱっと明るい感じが、確かに教育出版はしますね。

ただ、その辺は、多分、教育長がおっしゃったイメージが、私も改めて見まして気がつきました。教科書として楽しそうだなというのを含めると、教育出版というところですが、これは大切かなという気がしています。

教 育 長 上野委員、いかがですか。

上 野 委 員 私もそんなに違いがあるものではないので、構わないです。

教 育 長 高野委員、どうですか。

高 野 委 員 内容的には本当に大きな差がないということですがけれども、先ほど私が申し上げた写真を選ぶところの配慮というか、そこにすごく大きな違いがあるかなと、子どもたちに歌の背景を伝えたいとか、情景を伝えたいという意味をすごく、さっき言いました何点かから私は感じたんですね。

あと、上野委員の方から合唱に関してのご意見があったのですがけれども、合唱コンクールで歌われている曲もこの中かなり入っておりまして、教育出版に変えても余り現場での混乱はないのかなという気はしています。

私は、教育出版のものを子どもたちに使わせてみたいなという気がしております。

教 育 長 例えば1年生で「魔王」というシューベルトの内容があるのですがけれども、このあたりを見ても、非常に教育出版は丁寧に扱っていますね。

さっき申し上げたように、共通教材の扱いが、合唱の部分は、本当に教育芸術社は豊富だなと思うのですがけれども、子どもたちの興味・関心という意味では、教育出版が非常に工夫を凝らしている。しかも、視覚的な工夫を凝らしているなというイメージを私は感じます。

松澤委員、お願いします。

松 澤 委 員 こちらの教育出版も含めて、違いの点では、視覚効果というところではかなりの違いがあると思ひまして、教育芸術社の方は、王道と言ったらいけないのでしょうかけれども、スタンダードな音楽の形であって、新しいという面では教育出版の方に評価があるというのは確かだと思いますので、今回は、教育出版のものでよろしいのではないかと私も思います。

教 育 長 ありがとうございます。では、「音楽（一般）」については、教育出版を仮採択とすることにご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 では、「音楽（一般）」については、教育出版を仮採択とします。

次に、「音楽（器楽合奏）」の審議に入ります。

指導室長から説明願います。

指 導 室 長 続きまして、「音楽（器楽合奏）」でございます。

「音楽（器楽合奏）」につきましては、2社でございます。
教育出版、教育芸術社の2社の中から採択をお願いします。
説明は以上でございます。

教 育 長 では、ご意見等、よろしく願いいたします。
 「器楽合奏」です。
 では、高野委員、お願いします。

高 野 委 員 これは、音楽一般と教科書は揃った方がいいのかなというような気がします。
 こちらも一般と同様に、この調査報告書を読みますと、2社ともに内容的に十分であり、余り大きな違いはないということが書かれておりました。
 音楽一般との関連もありますので、私は教育出版がいいと思います。
 教育出版については、アルトリコーダーの解説で、親指の動き、サミングが写真入りで分かりやすく書いてあるのと、ボディーパーカッションを取り扱っているところが面白い。
 あと、アーティキュレーションのところでは、各奏法の違いが分かるように、音の長さを、私も見てみたのですけれども、スタッカートとか、そういうところが帯のカードで、短く切るもの、長く伸ばすもの、もっと長く伸ばすものと書かれていて、目から奏法の特徴がつかみやすいというところで、分かりやすいのかなと思いました。
 以上の理由で、教育出版がいいと思います。

教 育 長 ありがとうございます。
 松澤委員、いかがですか。

松 澤 委 員 私は、先ほど意見は全部言ってしまったので、教育芸術社の、器楽の部分に関しても、即興演奏に結びつけられる構成だとか、あとは、譜面ではなく、コード進行とか、そういったものもつけてあったという点を評価して、教育芸術社の方を、先ほども言ったように推薦させていただきました。
 ただし、音楽一般の方が教育出版になっていますので、今回は教育出版のものに合わせるという形でも問題はないかとは感じております。

教 育 長 上野委員。

上 野 委 員 私も、先ほど教育芸術社を一般の方で考えておりました、今、一般で教育出版ということですので、教える側、教わる側を考えても、統一性のある教科書の方がいいと考えております。

教 育 長 ありがとうございます。
 青木委員。

青木委員 私も同感で、教育出版でよろしいと思います。

教育長 私の方も、アルトリコーダーの扱いを見てみたのですけれども、教育出版はソプラノリコーダーとアルトリコーダーを併載していて、これは面白いな、導入に役立つなという気がしましたし、指導もしやすい、柔軟な授業ができるかなど。

教育芸術社も、アルトリコーダーの部分では、レッスン1、レッスン2、レッスン3と段階で示されていて、特にレッスン2では、オクターブによる指使いの相違が取り上げられる工夫が見られるというところで、和楽器の扱いや、リズムアンサンブル、発展的な学習において、双方、工夫が見られますが、一般とリンクする内容があるために、教育出版を推薦したいと思っております。

それでは、「音楽（器楽合奏）」については、教育出版を仮採択とすることにご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

教育長 では、「音楽（器楽合奏）」については、教育出版を仮採択とします。次に、「美術」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指導室長 続きまして、「美術」でございます。

「美術」につきましては、3社でございます。

開隆堂出版、光村図書出版、日本文教出版の3社の中から採択をお願いします。説明は以上でございます。

教育長 では、ご意見等をよろしく願います。

松澤委員 私の方は、その3社の中で日本文教出版のものを推薦したいと思います。

現行でこれを使っているということが1点と、あと、1社だけ3分冊になっていまして、それが発展的な発達の段階に応じた構成になっているという点を評価させていただきました。

あと、美術なので、視覚的要素も多いので、見た目というか、見た目の映像の印象という面で、やはり日本文教出版のものがよろしいのではないかなと思います。

教育長 高野委員、よろしいですか。

高野委員 私は、光村図書出版か日本文教出版と思っております。

光村図書出版は、資料のページが充実している点と、あと、「特別展示室」というページがあるのですが、そこで風神雷神の姿を木彫りの作品と屏風の作品で見開きで見せています。そうすることで、立体と平面の作品の違いを対比させて

いるところがとてもいいと思いました。

同じく、ピカソの「ゲルニカ」の見開きのページも迫力満点で大変素晴らしいなと思いました。

もう1社、日本文教出版です。こちらは、小中の連携という点で、「1年生の図画工作から美術へ」というページがありまして、そこで小学校の図画工作で学んだことの多くは中学校の美術につながっていますよと導入した後、鑑賞との出会いで、作品をつくるだけではなくて、鑑賞の力をつけることも美術の学習で大切なことですよと伝えています。

小学生から入ってくるときに、大変このページが有効だなと思いました。

あと、「教科書美術館」というところは左右見開き4ページの大きなページなのですが、1年生では植物、2、3年の上で葛飾北斎の富嶽三十六景の浮世絵版画、2、3年下で三十三間堂の千体千手観音像を紹介しています。

この浮世絵版画については、和紙を使用して、質感が感じられますので、中学生たちも、さわってみて、より本物に近いものを感じられるのではないかなと思いました。

こちらの日本文教出版の方は、横幅のサイズが大きいために扱いに問題があるというようなご指摘もあったのですが、サイズが大きくなったことが見ごたえの部分に十分反映されていると思います。

小中の接続、取り上げ方の素晴らしさという点で、私は日本文教出版を第一、次に、光村図書出版ということをお願いいたします

教 育 長 上野委員。

上 野 委 員 私は日本文教出版を推薦いたします。

3冊に分かれて、それぞれにテーマがあり、いいと思いました。

多くの作品を鑑賞したり、作品制作が多岐にわたっていて、五感をたくさん使い、美術を楽しめる教科書と思った、これが推薦理由です。

教 育 長 ありがとうございます。

青木委員。

青 木 委 員 私も日本文教出版です。

やはり3分割の中で、特に私が申し上げようと思ったのは、この「美の探求」のところでした。単なる美術という科目から、もう一步、社会につながりを持ったような、例えばインダストリアルデザインに対してのつながりですとか、光のデザインとか、そういったところをイメージさせるような表現が工夫されていて、これが私は非常にいいことだと思いました。

子どもたちに、単なる美術の点から、それをどう世の中、社会の様々な芸術や、具体的にまちをつくっていくという部分に広げていくか、それから、科学の発展に繋げていくかというような部分までイメージできるようなものというのは非常

に重要だと思ったので、そこも含めて日本文教出版を推薦いたします。

教 育 長 ありがとうございます。

私の方も日本文教出版。

そして、光村図書出版も本当にダイナミックな、非常に見て楽しめる教科書のよさは感じます。

ただ、日本文教出版の方が、私も、先ほど高野委員がおっしゃったように、「美術1出会いと広がり」というところで、小中の接続が上手く、美術は楽しそうだなというイメージを醸し出させるような見開きになっていて、学年進行による発展的内容も含めて、子どもたちが理解しやすいのかなと思っています。

しかも、文字も、どちらかというとな光村図書出版より見やすい。光村図書出版は少し字が小さい部分について、字の間、字間だとか字の大きさも日本文教出版の方が見やすいのかなと思っています。

先ほど言われていたように、鑑賞させる作品により紙の質を変えて、視覚だけでなく、その時代の作品の風合いや色調などにより近い資料提示がなされているというところ、これは2年・3年上の26ページ、27ページあたりにも非常に強く感じました。

そのような理由で、日本文教出版を推薦させていただきます。

では、「美術」については日本文教出版を仮採択とすることにご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 では、「美術」については、日本教育出版を仮採択とします。

次に、「保健体育」の審議に入ります。指導室長からお願いします。

指 導 室 長 続きまして、「保健体育」でございます。

「保健体育」につきましては、4社でございます。

東京書籍、大日本図書、大修館書店、学研教育みらいの4社の中から採択をお願いします。

説明は以上でございます。

教 育 長 では、「保健体育」につきまして、意見等をよろしくお願ひいたします。

上 野 委 員 私は、大修館書店を推薦します。

教科書の構成、体育編から保健編への構成がよいと思います。逆のパターンの教科書もありますが、あくまでも体育編が先に来て、保健編。

各章での学ぶポイントが明確になっている。重要になる語句が非常に強調されているというところ。あと、本文の説明を補足する注釈は非常に理解しやすいと考えました。

また、「Q&A」というようなポイントが、数多いわけではないですが、一番、思春期に身近な疑問に対して回答されている。個人の悩みも、その部分で十分解決できるのではないかというような内容のもと、大修館書店を推薦いたします。

教 育 長 松澤委員、どうぞ。

松 澤 委 員 私も、同様に大修館書店を推薦させていただきます。

大修館書店を選んだ理由については、発展的な内容が13カ所あるというのが見受けられるということと、あと、インターネットサイトのアドレスが掲載されているということで、これからの分野にも力を入れているという評価をさせていただきました。

あと、もう1社、学研教育みらいも発展的な内容が10カ所あったり、非常に評価はあるのですが、現行、使っている大修館書店の評価がある一定以上ありますので、こちらを継続していった方がよろしいかと思ひまして、大修館書店を推薦したいと思います。

教 育 長 青木委員。

青 木 委 員 私も大修館書店がよいのではないかと思います。

調査委員の皆様のご意見を聞いて、全体的に、両社の中でも大修館書店が課題が少ないというのが目に止まったところです。あと、全体を見せていただいて、先ほどの上野委員のご意見も含めて、私自身も大修館書店でよろしいのではないかと思います。

教 育 長 高野委員、お願いします。

高 野 委 員 私も大修館書店がいいと思います。

巻頭に、2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催決定の瞬間の写真が載っていたり、今の中学生と同世代の中学生、高校生のアスリートの写真を多く使っていたり、興味・関心を高めています。

また、幼いころ、中学生の今、将来と、自分のライフサイクルと、その時々どんなスポーツと関わっていくのか、山中伸弥先生のスポーツライフと重ねながら想像していく導入がとてもいいなと思いました。

あと、スポーツのかかわりというところで、学校の運動会ですとか、そこで自分たちがどんな係をしたり、選手として参加するとか、そういうかかわり方、また、東京マラソンを例にして、走るだけではなくて、東京マラソンを支える色々な人たちを取り上げたりして、身近に感じながら、スポーツとのかかわりということが学べるようになっていく点もいいと思いました。

あと、内容的には、心の健康・喫煙・飲酒・薬物乱用・医薬品の利用というところ

ろが充実していると調査報告には書いてあったのですが、それぞれ知識を学んだ後に、心の健康では、「心も風邪を引く、誰かに相談しよう」というページがあり、相談窓口が複数紹介されている。

また、「たばこの広告について考えてみよう」とか、「飲酒を勧められたら、あなたならどうする」、あと、「違法でなければ薬物を使いますか」など、自分の考えを書き込むなど、ここでもブレインストーミングやディスカッションをするページがあり、問題解決型の学習や、生徒が主体的に学習できるようなページが大変多くて、とてもよいと思いました。

以上の理由で、大修館書店がいいと思います。

教 育 長 ありがとうございます。

私も、大修館書店を推薦いたします。写真と絵のバランスがとてもよく、親しみが持てるかなと思っています。

本文を読み進めることで、学習内容が理解できて、授業展開もスムーズに行う文章構成の工夫とか、重要語句の解説がとても多くて、さらに、今、高野委員がお話のように、生徒が記述できる、それによってグループのディスカッション等ができやすくなるということで、一方的な授業というよりも、子どもたちが話し合ったり、考え合ったりしながら授業が構成できるかなと思っています。

あとは、発展的な内容。先ほど松澤委員がおっしゃっていた、インターネットサイトのアドレスが、きちんと記載されていて、子どもたちはそれを活用しながら、主体的に学習ができる工夫も見られています。

そして、もう1つ、本文の背面がクリーム色で文字が記載されていて、大変読みやすいかなと思っています。

それから、最初の部分の出だしに、今おっしゃったような、災害とか、それから、喫煙・飲酒・薬物乱用による体への影響の写真が非常にショッキングなところで載せられていて、学びへのモチベーションにつながっていくかと思っています。

さらに、実技本も3分の2がこの大修館書店を使っているというところもありまして、大修館書店を推薦いたします。

では、「保健体育」については、大修館書店を仮採択とすることにご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 では、「保健体育」については、大修館書店を仮採択とします。

次に、「技術・家庭（技術分野）」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 続きまして、「技術・家庭（技術分野）」でございます。

技術分野につきましては、3社でございます。

東京書籍、教育図書、開隆堂出版の3社の中から採択をお願いいたします。
説明は以上でございます。

教 育 長 では、ご意見等がございましたら、お願いいたします。
上野委員、お願いします。

上 野 委 員 私は東京書籍を推薦いたします。
調査報告で、東京書籍の教科書の大きさ、重量について、今後の課題が記載されておりますが、資料、文章のバランスが非常によい、見やすい、あと、内容が豊富で、イラストの使用が生徒の興味を高めたり、理解しやすいように工夫されていると感じました。

調査委員長の報告のときにも、通常、学校に教科書を毎日持ち運ぶという状況だとは思いますが、ロッカーに入れておくというような取り扱いの報告もちょっとありましたので、先ほどの東京書籍の課題の大きさ、重量というのは例外として、このような内容の中、東京書籍を推薦したいと思います。

教 育 長 松澤委員、お願いします。

松 澤 委 員 私は、現行の開隆堂出版と東京書籍の2社を見させていただきまして、今、上野委員がおっしゃったとおり、見やすさ、子どもたちに向けての説明、内容についてのイラストと実写のバランスなどがすごく分かりやすかったという点が1点。
そして、新しさについて、非常に新しいものを使っているという点でも考慮すると、今回はこちらの東京書籍の方がよろしいと感じました。

あと、内容のコンテンツの写真のところで、やはり開隆堂出版のものより、東京書籍の方が鮮明だったという点などもありまして、技術の分野は東京書籍の方を推薦させていただきたいと思います。

教 育 長 青木委員。

青 木 委 員 3社の中で、まず、個人的な好みで、見開きの部分を開いたところなのですが、教育図書と東京書籍は宇宙エレベーターが出てきたので、目を引かれまして、こういうところも取り上げていただいているのかなと思った次第です。これはあまり関係ありませんが。

全体を見させていただいて、重要だったのは、総評にも書かれているとおり、技術の分野というのは、安全面の配慮が大変重要だと思っています。

それから、4つ挙げられているポイントの中で、エネルギーの部分、そして、情報の技術、これらについて、いわゆる安全な使い方、それから、リスクを回避するという点での教育が、技術になると非常に重要になっています。

恐いから、よく分からないから、触らないというのではなくて、安全面に配慮した上で、色々なものに果敢に挑戦していくというのが今の子どもたちに重要だ

と思っている中では、そういった安全面への配慮というのが一番充実しているのが東京書籍だということです。

巻末にある防災手帳みたいなものも、これは震災のときに必ず役に立つと思いますし、我々の教育の面で、まず、新しく入ってきた子たちにやるのは安全教育です。

ですから、そういった面をこういった中学の中から常にやっていただいて、ある程度、安全に対しての配慮が行き届いている子どもたちを育てることが今の日本では大変重要なのではないかなとは思っています。

そういった面から、情報モラル、セキュリティーの内容、それから、安全面の配慮が大変充実している東京書籍を推薦したいと思います。

教 育 長 ありがとうございます。
 高野委員。

高 野 委 員 私も、技術は、紙面が大きく、見やすく、写真、イラストが効果的に使われていて、情報量も多く、発展的学習にも取り組める内容で、振り返りのページも用意されているということで、東京書籍がいいと思います。

今、青木先生の方からもお話がありましたように、安全に関するページが充実しておりまして、実習については、実習前、実習中、実習後に注意すべき点や、安全な作業を行うために、機械や道具の扱いについて、4ページにわたり詳しく書かれています。この点は、すごく素晴らしいなと思いました。

また、同じく、巻頭のガイダンスが充実していて、技術の学習を通して、どんな力を身につけたいか考えさせるというのも、とてもいいと思いました。

あと、写真の点なのですが、木材の特徴というページでは、紙面いっぱい木製の断面の写真が載っておりまして、年輪や芯材、辺材、木目、節などの説明が1枚の写真の中で分かるようになっていて、大変見やすいと思いました。

また、のこぎり引きやかな削りでは、連続写真や図を効果的に使って、大変分かりやすくなっています。

栽培の基礎技能でも、実習例が多くて、写真で手順が示されて、こちらも大変分かりやすくなっています。

あと、大きさの問題ですが、上野先生からのご意見と同じように、大きさのマイナス部分を埋めるよい点もたくさんあると思います。

あと、先日、一部の学校に行って、技術室を見せていただいたら、後ろに各学年の教科書を収納しておくスペースがあって、私が行ったときは試験前だったので、みんな持ち帰って、なかったのですけれども、そういうふうに教科書を置いておく工夫をしている学校もありますので、また、この大きさ、サイズについては、色々と、各校で工夫していけるのかなという印象を持ちました。

教 育 長 ありがとうございます。
 もう既に意見は出尽くしていますが、東京書籍を私も推薦したいと思います。

す。

繰り返しになりますけれども、版が大きくなったということもあるのですけれども、非常に情報量が豊富で、子どもたちがそれを選択して学べる。

多過ぎるので実際に本当に全部使えるのかどうかは別にしまして、写真やイラストも豊富ですので、子どもたちにとっては非常に見やすい。

さらに、見開きから安全のところを押さえた上で学びがスタートするところ、そして、最新の部分、水素自動車とか、そういったこともきちんと記述されています。

4領域の内容の扱いの中で、Bのエネルギー変換で、原子力発電について踏み込んだ記述が他社に比べて目立つかなと思っています。これからの原子力発電は欠かせない、どうなっていくのかというところは非常に注目するに値する。

それから、Bの情報モラル、あるいはセキュリティーの内容というのがやはり非常に充実しているというところで、私も東京書籍を推薦したいと思っております。

では、「技術・家庭（技術分野）」については、東京書籍を仮採択とすることにご異議ございませんか。

（異議なし）

教 育 長 では、「技術・家庭（技術分野）」については、東京書籍を仮採択とします。
次に、「技術・家庭（家庭分野）」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 続きまして、「技術・家庭（家庭分野）」でございます。
家庭分野につきましては、3社でございます。
東京書籍、教育図書、開隆堂出版の3社の中から採択をお願いします。
説明は以上でございます。

教 育 長 では、ご意見等をよろしくお願いたします。
高野委員、よろしくお願いたします。

高 野 委 員 家庭科分野も、見やすさ、情報量の多さ、新しさなどの点で東京書籍がよいと思います。

まず、巻頭のガイダンスが小学校の家庭科で学習したこと、それから、中学校で学習することを各分野で対比しながら書かれているので、小学校の流れが分かりやすく、興味が持てる内容となっています。

小中の接続という点では、各編の始めのページで、小学校で学んだこと確認した上で学習に入っていくという進め方がとてもよいと思います。

また、「実習を安全に進めよう」で、安全にもしっかり配慮されている点もよいと思います。

また、写真が大変鮮やかで、大きく、見やすくなっております。

特に私がいいなと思ったのは、一日に必要な食品の種類と量のページの、野菜を手秤ではかっている写真があるのですが、これが全部野菜の実物大の大きさなので、必要な量が一目で分かって、とても効果的なものだなと思いました。

食生活、衣生活の実習がとても充実していて、特に基礎技能のミシンのところは、図も大きくて、下糸の巻き方や上糸のかけ方、縫い始めから終わりまで、丁寧に扱っているので、本当に分かりやすいと思いました。

調理の基礎技能についても、計量の仕方や野菜の切り方など、大きい写真で丁寧に説明されているので、分かりやすくなっています。

野菜の洗い方というのが写真入りで説明されているのですが、これはほかの会社では扱っていない、東京書籍だけが扱っている。これも大変よいと思いました。

最後に、区民アンケートの中に、アレルギーについて触れられていないと書いてありましたが、調べてみましたが、食物アレルギーということで食品表示のところでしたので、問題はないのかなと思いました。

以上の理由で、東京書籍がよろしいかと思えます。

教 育 長 松澤委員。

松 澤 委 員 私も、同様に、東京書籍を推薦させていただきます。

技術同様、見た目と分かりやすさを重視した点で、東京書籍のものがほかよりもよかったという点と、あとは、食材ですとか、そういったものの鮮度というか、内容の方も新しさを非常に感じたという点があります。

やはり内容の新しさと内容のコンテンツの量というのが非常によかったのと、あと、イラストと写真のバランスなど、子どもたちの目線で見ると、現行の開隆堂出版と比べると、その面で差があったのかなと感じております。

教 育 長 ありがとうございます。

上野委員。

上 野 委 員 私は、技術・家庭というところで、技術分野、家庭分野と同一業者が指導もしやすいと、教わる方も同じだと思いますし、特に細かなところですけども、「衣生活・住生活の充実」というところで、基礎技能の内容が非常に丁寧に説明されているということが印象的でした。この東京書籍を推薦いたします。

教 育 長 青木委員。

青 木 委 員 私も、皆さんと同様で、東京書籍が、先ほど高野委員からもあった安全面の配慮というところが、広い範囲にわたって繰り返し広げられているというのが着目したところです。

若干、総評の中で、少し幅が広くて持ち運びが大変だというのがあ

れども、私の感覚では、それほどきつくないかなとは思っておりまして、若干、教育図書の方がコンパクトではありますけれども、全体的な内容からして、東京書籍の方が非常によく詰めて、この家庭分野をカバーしているのかなと思いたので、東京書籍を推薦したいと思います。

教 育 長 私も、東京書籍を推薦いたします。

先ほど高野委員がおっしゃったように、小中の接続というところが、ガイダンス、最初の部分がとても重要だなとは思っています。

「持続可能な社会を目指して」という非常に大きなテーマのもとに、家庭科というのは本当に身近な生活の学びであるし、ここで学んだことが実際の生活に生かされるし、実際の生活がこの家庭科に生かされるという、双方向性の強い、まさに実学に近いところを丁寧なガイダンスを進めているなど思っています。

各項、見開きで単位がまとめられていますので、学習や指導がしやすい。

それから、環境というところで、エコクッキングというのが80ページあたりに入っているのですが、これも環境に配慮した学習で扱いやすいのかなと思っています。

大きいですが、見開くとパノラマサイズの見やすさで、情報量も多くて、目次で全体の構成がはっきりと見渡せる、見通せるということ。

教科書を開いたときにどうかなとは思ったのですが、開いたページが戻りにくく、丁寧に扱えるということで、大きさについても特に問題がないのかなと思っております。

では、「技術・家庭（家庭分野）」については、東京書籍を仮採択とすることにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 「技術・家庭（家庭分野）」については、東京書籍を仮採択とします。次に、「英語」の審議に入ります。指導室長から説明願います。

指 導 室 長 続きまして、「英語」でございます。

「英語」につきましては、6社でございます。

東京書籍、開隆堂出版、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版の6社の中から採択をお願いします。

説明は以上でございます。

教 育 長 では、ご意見等をお願いいたします。よろしいですか。松澤委員。

松 澤 委 員 私は、現行の三省堂と東京書籍の2社を見させていただきまして、中1からスタートする英語ということで、ゆっくりスタートして、発展性があるもの、あと、

日常性のあるものということを中心に考慮した上で、東京書籍の方を推薦させていただきたいと思っています。

東京書籍の特徴としましては、基礎英語とユニバーサルデザインという、その2つを挙げておられまして、日常の生活に役立つ英語ということで非常に1年生からゆっくりスタートして、発展的な内容になっているという点を評価しました。

あと、日常性では、三省堂も日常性のある英語を非常に使っていたのですが、課題点としまして、2年生に負担が大きいという点が挙げられていたのが少し気になったので、今回は東京書籍を推薦させていただきたいなと思っております。

教 育 長 上野委員。

上 野 委 員 私も、現行の三省堂と東京書籍の2社に絞りまして、東京書籍を推薦させていただきます。

今も重複するところがありますが、非常に内容が多岐にわたっているという点。それとユニバーサルデザインを意識している。学年ごとのテーマが明確であり、1年生で出会う、2年生で広げる、3年生で見詰め直すということが、継続的に扱うことで理解が非常に深められるのではないかと。

この現代的なアニメを取り入れるというところですが、やはり今の時代です。1年のアニメの主人公を軸に、身近な生活を題材にしている点で、取り組みやすいのではないかと考えました。

2年生でのボリュームというところで、前置詞が覚えやすいように工夫されているという点、ここが三省堂との違いが出てきたところではないかなと思います。

3年、基本的文型が分かりやすいと。どうしても2年生でのボリュームという点が調査報告のところでもありまして、比べたところでございます。

調査報告にも記載されているように、ページにゆとりがあるので、中学校の英語に入りやすいように感じられました。

また、アニメを始め、挿絵を取り入れているので、単語の意味を理解しやすく、基礎学習の理解、定着という点では優れているというような状況から、東京書籍を推薦させていただきます。

教 育 長 青木委員、お願いします。

青 木 委 員 お2人の委員とほとんど重なってしまうのですけれども、全体を見せていただいて、ぱっと目を引くところが東京書籍なのかと思います。

あと、三省堂と実際に見比べてみて、何が悪いというのは非常に難しいですけれども、私個人では、資料編が結構見やすかったなと思います。感覚としてですけれども。

それも含めて、あと、お2人の意見と重なるものが多々ありますので、東京書籍を推薦したいと思います。

教 育 長 高野委員、お願いします。

高野委員 私は、読む、聞く、話す、書く、の4技能の活動が各レッスンに入っている三省堂を選びました。

粗筋をつかむ、内容を理解する、内容を整理すると、スモールステップを意識した構成になっていて、先生にとっては教えやすく、生徒にとっては分かりやすいという点、この点が非常に大きいかと思いました。

現在、三省堂を使っておりますが、私は、5月と6月に学校公開で1年生の授業を見たときに、1年生の5月で、ほとんど英語で先生が授業を進められていたのです。最初、何年生の授業かなと思ったら、1年生だということで、本当にびっくりしました。

三省堂の1年生の教科書の初めのところに、「クラスルームイングリッシュ」というページがあるのですが、ここを使って、先生が授業中にどんな指示を出すのか、そういうことを、英語の活動の中で使われている色々なほかの表現と一緒に絵にして載っていました。多分、このページで学習して、毎日使うことで慣れていったのかなと思いました。

余り英語が多かったので、先生に直接、子どもたちはちゃんと理解しているのでしょうかということを伺いましたら、授業で使う英語というのは大変限られているので、毎日使うことですごく慣れる。また、分からなくても、隣の人の動作などを見ているので、抵抗なく入っていけるのですというようなお話があって、そういう点でも、改めて三省堂の教科書を見て、三省堂の教科書が今の板橋区の授業を行っている中で大変合っているのかなと思いました。

各レッスンの「話してみよう」というポイントがあるのですけれども、そのほかにも、「レッツトーク」で身近な場面で会話を練習するページが用意されています。

実際の授業を見ていると、子どもたちは英語で発表するときに、とても小さな声で恥ずかしそうにしているのです。でも、とても興味がある、楽しそうだという印象を受けます。

これからは生きた英語を学ぶというためにも、こういうコーナーで英語を話す機会をさらに増やしていくといいのかなという思いで三省堂を選びました。

あと、先ほど、松澤委員の方から、2年生で課題が多くてちょっと大変かなというようなお話があったのですけれども、受動態をやるから大変だというようなお話があったのですけれども、3年生は現在完了形とか、また、それはそれなりにすごく学ぶことが多いから、2年生で頑張って受動態までしっかりやってくると、3年生での内容をしっかり学べるのかなと思って、分量の点について私はこれでいいのかなと思いました。

以上の点で、私は三省堂を推薦いたします。

教 育 長 ありがとうございます。

私も、三省堂を。東京書籍も非常に丁寧につくっていて、ただ、小学校で英語

活動をやっている子どもたちに、これでもかこれでもかというのがあるかなと。

レッスン1に行くまでに一体どこまでという、そんな長さの、丁寧さであると同時に、子どもたちにとっては、早く中学校で英語を勉強したいのだけれども、「はじめまして」がなかなか出てこないというところも感じています。

それから、ある学校で、英語の理解が、英語が楽しいというような声がありました。その「英語が楽しい」というのは、今、高野委員がおっしゃったように、話すとか聞くというところに重きを置いて、これはどの教科書もそうなるのでしょけれども、現行の三省堂で、今現在は授業が進められているところと、難しいところだと思うのですけれども、子どもたちにとって、丁寧なイントロダクションだけれども、早く行きたいというところの思いを考えると、これまでどおり三省堂というところがいいのかなと思っています。

それから、今、問題になった受動態についても、2年生で入れることによって3年生の学習にかなり余裕が出てくるというメリットもあるのかなと思っています。

東京書籍のよさもありながらというところですけども、いかがなところでしょうか。

松澤委員 今、皆さんがおっしゃった意見を聞いていまして、私は逆の意見なのですが、板橋の子どものレベルというか、色々と先生がおっしゃった話を聞いていると、1年生に負担が結構多いのではないかと感じておりまして、中学1年生の最初の英語というのは、スタートはゆっくりしていただきたいというのが私の意見です。スタートはゆっくりした上で、乗ってきたなというか、そういった中で発展性を持たせていく。スタートがゆっくりなまま3年までいくというのも、また然りだと思いますが、その面を調査委員会の先生に聞いたところ、その部分の差というところで、三省堂と東京書籍の差が出ているのではないかなとおっしゃっていたので、私はそこを重視したいなと思います。

教 育 長 上野委員。

上野委員 私も、2年の後半に長文が非常に長くなってきているので、そこで英語の力の差というのもすごく出てくるのではないかな。

逆に、安全性ではないのですけれども、東京書籍の方が、ある面、平均的に英語力ができるような教科書のイメージ、そういう感じを受けました。

逆に言うと、長文が短いという欠点もありますし、発展学習というところの、厳しいという問題があるのですけれども、非常に差が出てきたときに板橋区としてどうかという問題が、前回のこの調査委員のお話を聞いても、どちらを選ぶべきかというので非常に悩んだ部分で、アニメの導入も、そういうところでの判断でさせていただきました。

教 育 長 青木委員、いかがですか。

青木委員 私も、どちらかという、松澤委員の意見と近いかなというのが本音でございまして、見た感じで身のまわりのテーマを広範囲に扱っていると思うのは東京書籍かなというのが個人的にはありました。

あと、取り上げているテーマが、どちらかという、これは私の個人的な感想なのですけれども、東京書籍の方が今の時流に沿っているかなというのが全体的にありました。

教 育 長 高野委員。

高野委員 私は、実際に自分の目で子どもたちが英語の授業を受けている様子を割と年間を通して見ているのですけれども、英語については個人差がすごくあると思うのです。それは、もう1年に入った時点ですごく大きな差がある。

そういう意味で、逆に言えば、余り丁寧過ぎるといふか、そういう学習をしたからといって子どもたちの力がそこで一緒になるとは思えないのですね。

だから、そういう意味で、文法とかそういうところの学び以外の、先生と英語のやりとりをするというところで子どもたちが大変興味を持って英語の授業を受けている姿を見ると、三省堂の、さっきも言いましたけれども、クラスルームイングリッシュのところでやったことで、とても英語の授業らしいことをやっている点が、見ていても、子どもにとっては興味深いのかなというような感じがして、なかなか三省堂は捨てがたいかなと、現在、三省堂を使ってやっている授業を見て、いいかなと思いました。

前回の教科書採択のときのお話を聞いてみると、なかなか話す、聞くということまで板橋の英語はいってなくて、そういうところを今後伸ばしていきたいというような趣旨があったと思うのですね。

そういう中で、4年間、現場の先生方たちも非常に授業改善されて、こういう取り組みになっているのかなという流れの中で、変えなければいけない大きな理由が私の中で余り見つからなかったものですから、三省堂かなと思っているのです。

教 育 長 導入の部分、記述の部分で丁寧に扱っていくということが必要だということと、三省堂は、かなり途中、途中にドリルといふか、繰り返して丁寧な扱いをしていますよね。そのあたりですね。

現行で使っている教科書の成果みたいなものを高野委員はおっしゃいますし、残念ながら、板橋の子どもたちはというのもあります。

松澤委員 これも、審議を保留ということ。

教 育 長 いかがですか。

(はい)

教 育 長 では、今、意見が分かれているというところで、英語につきましても、「社会（公民的分野）」と同様、午後のスタートということでよろしいでしょうか。

(はい)

教 育 長 では、審議の都合上、ただいまより、休憩に入ります。

なお、教育委員会の再開は12時45分とし、「社会（公民的分野）」、「英語」から審議を行います。

傍聴の皆様におかれましては、午前中で退席する方は、傍聴券の控えを退席時に係員にお渡しください。また、午後も引き続き傍聴される方は、今お持ちの傍聴券を午後の入場時にご提示ください。

なお、休憩に入る際の注意事項としまして、傍聴の皆様にご案内いたします。

先ほど申し上げましたとおり、午後の審議再開は12時45分となりますが、先ほどの待合スペースは、申し訳ございませんが、使用できません。

つきましては、再開5分前、12時40分にこちらの会場にお越しくださいますよう、お願いいたします。

それでは、休憩といたしますので、傍聴の方はご退席願います。

(傍聴人 退席)

(午前 11時 45分 休憩)

(午後 0時 43分 再開)

教 育 長 それでは、時間になりましたので、日程第三 議案第57号「平成28年度区立小・中学校使用教科書の採択について」の審議を再開します。

次 長 よろしいですか。

教 育 長 どうぞ。

次 長 1件、報告がございます。

本日、出席しておりました課長でございますが、木内学校地域連携担当課長と荒張施設整備担当副参事は、決算審査のため、午後は欠席させていただきます。よろしく願いいたします。

以上です。

教 育 長 それでは、「社会（公民的分野）」の審議に入ります。
改めて、指導室長から説明願います。

指導室長 それでは、「社会（公民的分野）」でございます。
 「公民」につきましては、7社でございます。
 東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の
 7社の中から採択をお願いいたします。
 説明は以上でございます。

教 育 長 先ほど、午前中のところでは、帝国書院、東京書籍、日本文教出版というところ
 で、東京書籍、日本文教出版というところが少し話し合いの中で論議になって
 おるわけですがけれども、改めて、ご意見をお願いいたします。
 では、青木委員。

青 木 委 員 この休みの時間の間に、もう一度、特にお話のあった2つを見直させていただきました。

 本当に私の中では優劣つけがたいところもあったのですがけれども、もう一度、
 よく見直しますと、日本文教出版の中に、注目すべきところが私の中で2点引っ
 掛かりました。

 1つが、50ページ、これは東京書籍にもあるのですがけれども、「バリアフリ
 ーの社会を目指して」というのが日本文教出版の50ページにあります。ここも
 実例の挙げ方が、大阪の堺市を例にという形で、例を取り上げているところに注
 目しました。

 公民という中では、実例、要するに、公民そのものというのを理解するのは、
 なかなか難しい点もあると思って、特に中学生には。

 こういうことが公民を勉強することによって実現するのだよというような事例
 として取り上げられているものは、これはなかなか分かりやすくていいのかなと
 思いました。

 それから、もう1つは、112ページの「裁判員裁判シミュレーション」。そ
 の前から、「私たちの司法と裁判員制度」というのがありまして、これも、要す
 るに、裁判員制度が導入されてまだ新しいということで、これを現在の若者たち
 に理解していただかないといけないということで、これはある中学校で私も拝見
 したのですがけれども、裁判員裁判シミュレーションというのをやっている例を一
 度見させていただきました。

 そのときに、中学校の生徒さんたちが、本当に被告席、原告席に分かれてディ
 ベートする様というのが非常に印象に残っていて、その後、何かで、非常にこう
 いう裁判とか、こういう司法に対して興味がわいたというアンケートもあったと
 いうようなことを含めて、こういう内容を盛り込んでいるのはなかなかよいなと
 思いました。

 以上のことから、日本文教出版の方を推薦させていただきたいという結論にな
 りました。

教 育 長 ありがとうございます。松澤委員。

松 澤 委 員 私も、公民は、東京書籍と日本文教出版の2つの本をもう一度見比べて見て、人と社会のつながりという面でも、日本文教出版は、最後のページではないのですけれども、その前のページに、やはり社会とのつながりのページが設けられている点もありますし、あとは、板橋区の方で、これから色々なワークショップなど、実際にたくさん生徒同士が話し合いを持てるような教科書づくりをするという点では、日本文教出版のものでもよろしいのではないかなと思っておりますので、そちらの方でよろしいかと思えます。

教 育 長 では、上野委員。

上 野 委 員 私の方は1社に絞って発言させていただきましたので、皆様のご意見を最終的に、総合的に判断させていただきました。

教 育 長 高野委員。

高 野 委 員 私も、今の休憩時間に、東京書籍をもう一度見直させていただいたのですが、内容的には大変素晴らしいのですけれども、学び合いのページが日本文教出版に比べて少ないかなという気がいたしました。
ですから、私も日本文教出版がよいと思います。

教 育 長 ありがとうございます。社会科は非常に教える内容が多いということで、どちらかというと教員による一斉指導型の授業が多いのですけれども、日本文教出版の場合は、ブレインストーミング、あるいはディベート、それから、先ほどの議論、ロールプレイなどといった学び方というところでは、教員の意識も少し変わっていくのかな。

逆に言うと、その単元のゴールに、例えばブレインストーミング的な活動をするとか、先ほど出たような模擬裁判的なものをするをゴールに単元を進めていくという意味では、まさにアクティブラーニング的な学習活動が展開できるという意味で、私も日本文教出版を推したいと思っております。

それでは、「社会（公民的分野）」につきましては、日本文教出版を仮採択とすることにご異議ございませんでしょうか。

（異議なし）

教 育 長 「社会（公民的分野）」につきましては、日本文教出版を仮採択とします。
では、次に、「英語」についてお願いしたいと思っております。

「英語」につきましては、午前中、東京書籍、三省堂の2つに意見が分かれておりました。

改めて、ご意見をお願いいたします。

松澤委員 三省堂と東京書籍の違いの面で、中学1年生の分野でスロースタートしていった、発展性につなげていくという点と、あと、日常会話について、東京書籍の方がよろしいのかと思っておりますので、できるだけそちらを使っていたきたいなと思っております。

教育長 ありがとうございます。
青木委員。

青木委員 三省堂と両方、もう一度、見直しさせていただきました。
本当にこれも優劣つけがたいという思いはあるのですけれども、それから、勉強する面では三省堂の方がいいということはあったかなとは思いますが、板橋区の教育レベルを考えると、先ほどの松澤委員の意見、それから、写真のきれいさ、目の引きやすさ、それから、総評の中にもあるように、東京書籍はユニバーサルデザインを意識した見やすい構成というの、デザインの配慮されているというところに着目して、私も東京書籍がよろしいのではないかという結論になりました。

教育長 上野委員。

上野委員 私は、先ほどと同じですが、平均的に英語ができるようになる教科書ということで、東京書籍を推薦いたします。

教育長 私も、今現在、使われている教科書に大きな問題がないのであればという思いでいたのですが、今回の教科書の採択の大きな1つの柱としては、板橋の子どもたちの実態、基礎的・基本的な学習内容の定着、あるいは主体的に学ぶ意欲の向上、そういったものを捉えたときに、確かに東京書籍の教科書は非常に丁寧な扱いをしています。

途中、途中にも、レビューする、復習というか、確認するところも入っていて、今回の教科書採択に当たっての板橋としての1つの筋として、やはり、上野委員がおっしゃったように、どの子も学ぶことができ、さらに基礎的・基本的な学習の内容が定着するような構成というところで、私の方も東京書籍というところで推薦させていただきたいと思います。

高野委員。

高野委員 私は三省堂がよいと思っていたのですが、ほかの委員の皆様のご意見を伺って、また、基礎・基本をしっかり学べるという点はとても大切なことだと思います。

現在も、先生方が三省堂の教科書を使って、すごく授業改善に努力されて、今、

いい授業が行われておりますので、ここでまた基礎・基本を大切にしている教科書を使って、新たにもう一度そこをしっかりと固めていただくことができるのかなと思いましたが、私も東京書籍がよろしいと思います。

教 育 長 ありがとうございます。では、「英語」については、東京書籍を仮採択とすることでご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

以上で、全教科について審議が終了しました。

全ての教科・種目について、次のとおり、仮採択いたしました。

読み上げさせていただきます。

「国語」、光村図書出版、「書写」、光村図書出版、「社会（地理的分野）」、帝国書院、「社会（歴史的分野）」、帝国書院、「社会（公民的分野）」、日本文教出版、「地図」、帝国書院、「数学」、東京書籍、「理科」、東京書籍、「音楽（一般）」、教育出版、「音楽（器楽合奏）」、教育出版、「美術」、日本文教出版、「保健体育」、大修館書店、「技術家庭（技術分野）」、東京書籍、「技術家庭（家庭分野）」、東京書籍、「英語」、東京書籍。

それでは、教科書採択に関連した来年度の中学校教科書の給与についての説明を、指導室長からお願いいたします。

指 導 室 長 それでは、来年度中学校用教科書を給与する際の説明をさせていただきます。

平成28年度から使用する中学校用教科書につきましては、新しい版の教科書が発行されるため、採択した発行者から発行される新しい版、新版の教科書を原則として給与することとなっておりますが、このことについて、幾つか留意事項が国や都から示されておりますので、ご説明いたします。

まず、第2、第3学年の「社会科（歴史的分野）」、「地図」、「音楽（器楽合奏）」、「保健体育」、「技術家庭」、そして、第2学年の「社会（地理的分野）」、第3学年の「音楽（一般）」と「技術」、以上につきましては、前年度まで給与したものをそのまま使用することになります。

次に、「書写」についてですが、発行者により、学年の分冊の形態が異なっております。

平成27年度に板橋区が採用していた光村図書出版については、第1学年に新たに採択した第1から第3学年用教科書を給与し、第2学年及び第3学年については、給与済みのものを継続して使用することになります。

最後に、「英語」についてです。

「英語」については、学習指導要領において、3学年分の使用内容が一体となっておりますが、教科書は学年ごとに発行されております。

そのため、採択教科書を変更した場合、第1学年については採択変更後の発行者の新版教科書を使用しますが、学習内容の連続性を配慮し、原則的に、第2学

年及び第3学年については採択変更前の発行者の新版教科書を使用することになります。

以上でございます。

教 育 長 以上で、平成28年度中学校使用教科書を決定することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 では、そのように決定いたします。

次に、平成28年度区立小学校使用教科書について、指導室長から説明願います。

指 導 室 長 区立小学校の教科書につきましては、昨年度、採択替えを行い、今年度は採択替えの年ではありませんので、来年度も現在も使用している教科書と同じものを使用することとなります。

次回の採択替えは、平成30年度に行う予定です。

以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

(なし)

教 育 長 では、お諮りします。平成28年度区立小学校使用教科書については、現在使用している教科書を、引き続き、来年度も使用します。

現在使用している教科書は、次のとおりでございます。

「国語」、光村図書出版、「書写」、光村図書出版、「社会」、東京書籍、「地図」、帝国書院、「算数」、東京書籍、「理科」、東京書籍、「生活」、東京書籍、「音楽」、教育芸術社、「図画工作」、開隆堂出版、「家庭」、開隆堂出版、「保健」、学研教育みらい、以上を決定することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 では、そのように決定します。

続いて、特別支援学級使用教科書（一般図書）についてです。

指導室長から説明願います。

指 導 室 長 平成28年度特別支援学級使用教科書についてご説明いたします。

小・中学校の特別支援学級においては、学校教育法附則第9条に基づき、文部科学省検定済教科書を使用することが適当でない場合、他の適切な教科書として、

いわゆる「一般図書」と言われる図鑑や絵本などを選ぶことができ、これは毎年度、採択できることとなっております。

現在、この一般図書につきまして、特別支援学級が設置されている小・中学校に対して、各校の児童生徒の発達段階に応じた図書を個々に選定するよう依頼し、指導室で報告を受けているところです。

今後、報告があった図書を指導室で取りまとめ、採択一覧として作成した案について、8月26日の教育委員会にてご審議いただく予定となっております。

説明は以上です。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

それでは、日程第三につきましては、特別支援学級使用教科書を8月26日に審議することとし、継続ということでご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

教 育 長 では、そのように決定します。

時間の都合もございますので、本日の審議は日程第一から日程第三までとし、報告事項につきましては、次回、7月30日の教育委員会で聴取することといたします。

以上をもちまして、本日の教育委員会を閉会いたします。

午後 0時 59分 閉会